

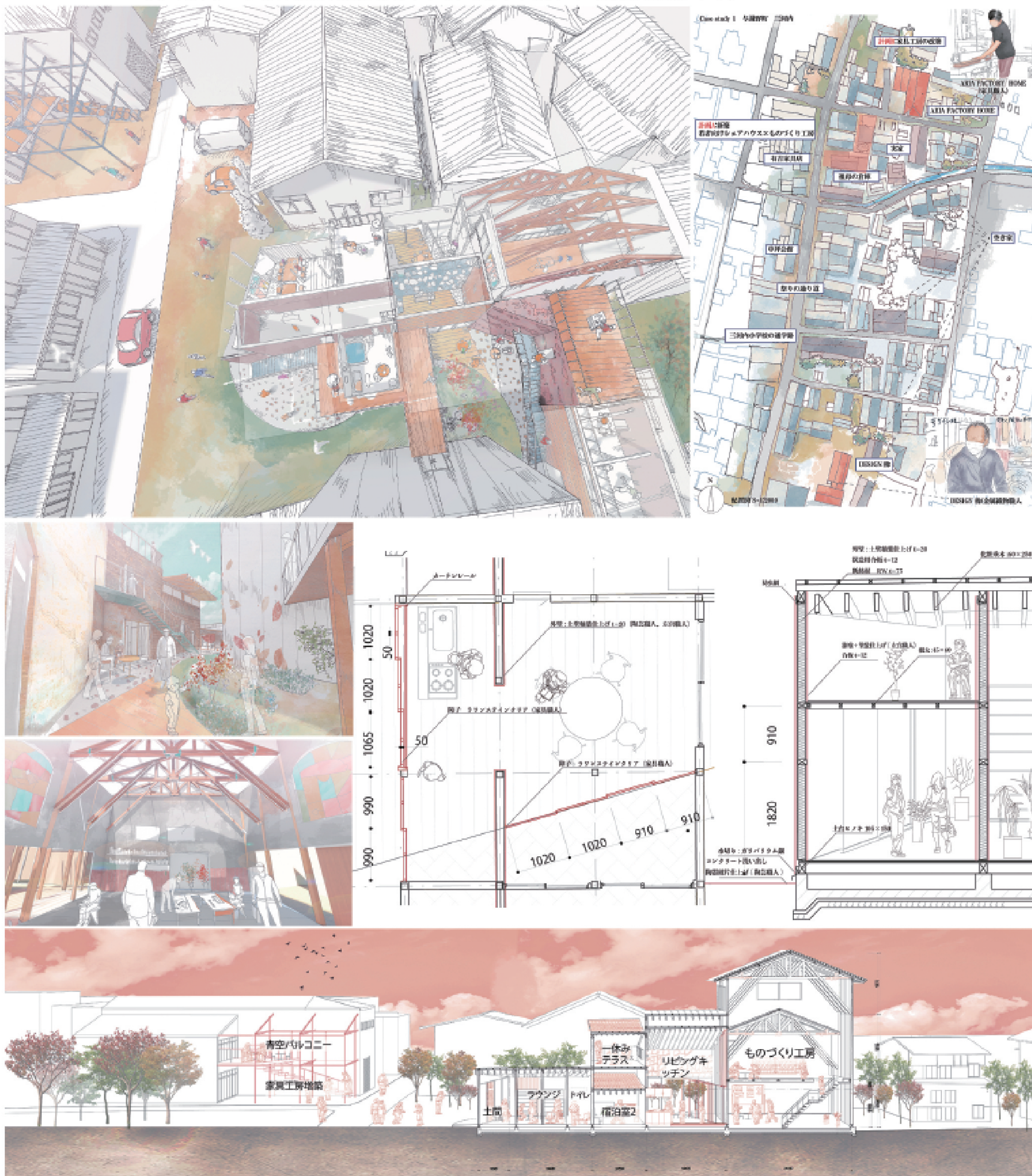
職人の工房における空間的特徴とネットワークに関する研究及び設計提案

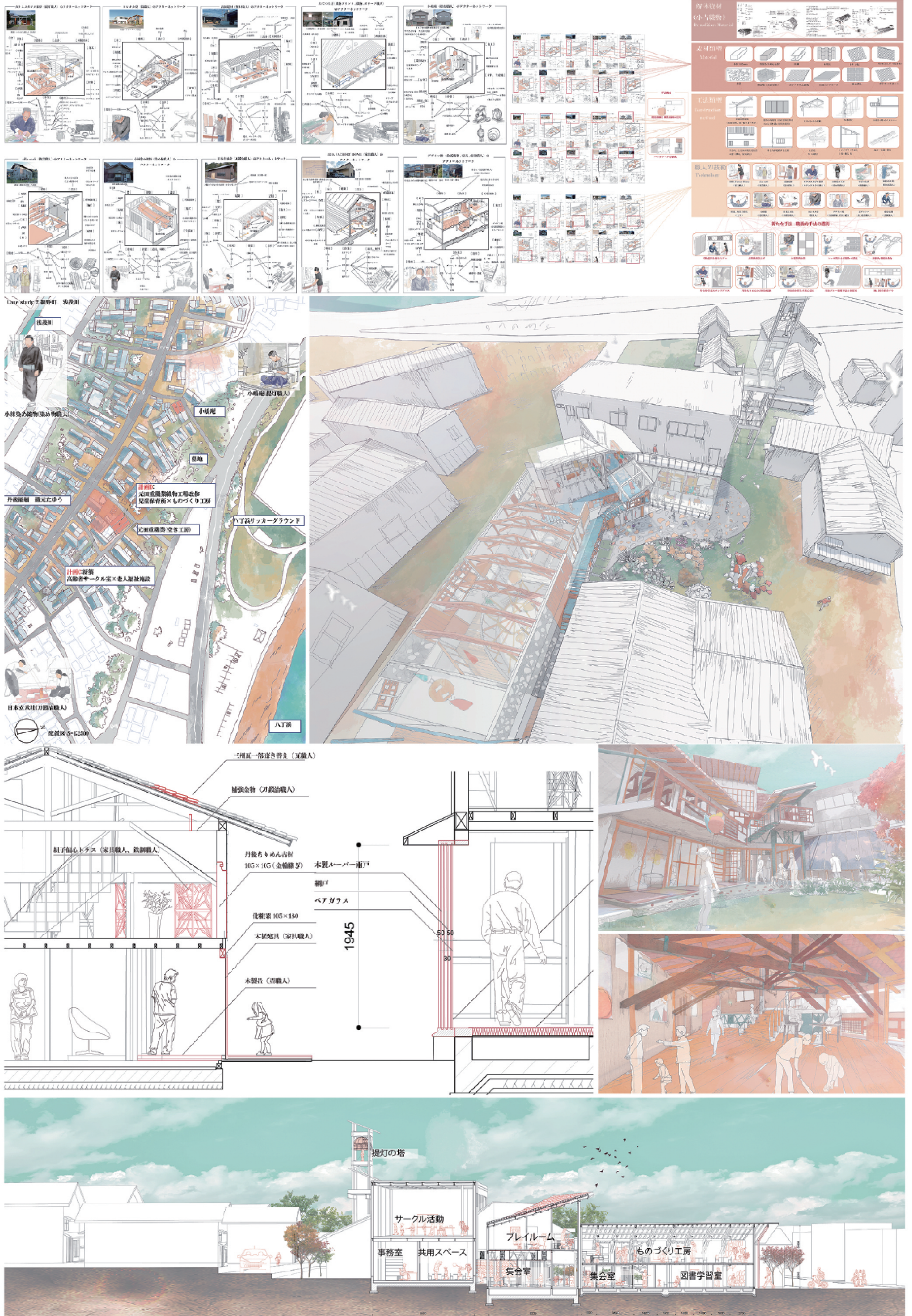
-京都府丹後地方を対象として-

有吉慶太（光嶋研究室）



本研究は、京都府丹後地方における職人の衰退による空き工房の問題を背景に、京都府丹後地方における工房10ヶ所を対象として、アクターネットワーク理論を下敷きに工房のモノ、技術、人の連関を明らかにする。また、それらを組み直し、工房、地域のネットワークを再編することで、一つの工房内で完結してしまうものづくりの形ではなく地域、街全体で連関するものづくりの形を実現することを目的とする。具体的には、調査から抽出した要素を職人の手仕事の技術により、素材や工法を結合し、実践的に建築部材を共同しながら創ることで、手仕事の痕跡を残し、「悦び」を獲得することを目指した。この創発を手法として確立し、京都府丹後地方の与謝野町と網野町の二ヶ所に設計提案を行うことで、ネットワークを再編し、新たなものづくりの形、手仕事の可能性を提示する。



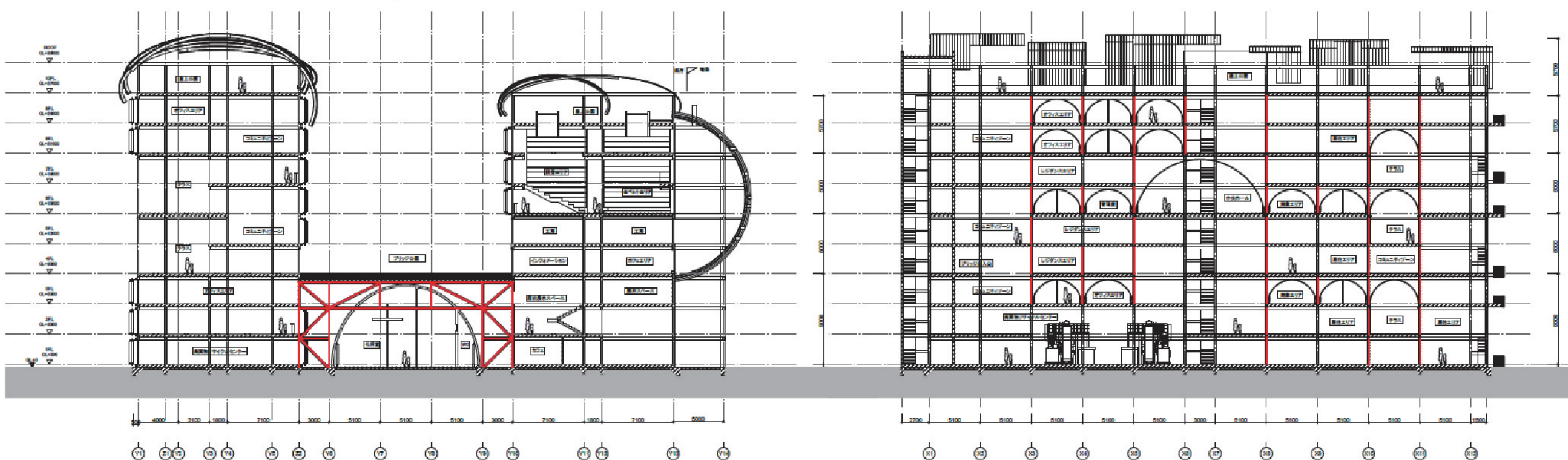
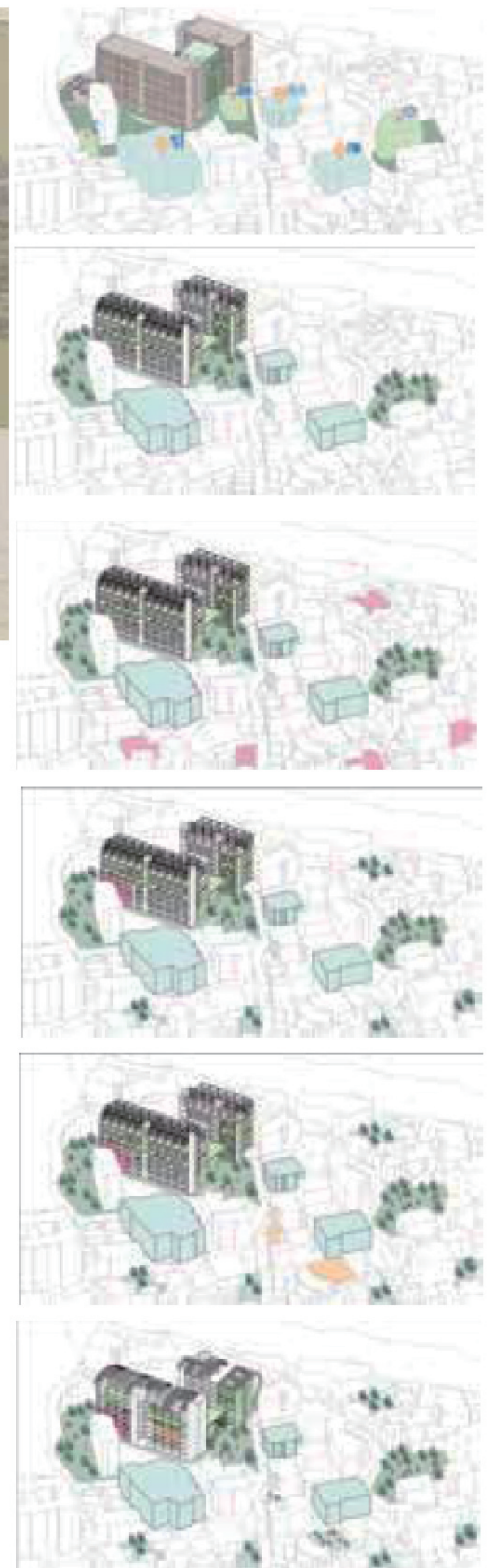
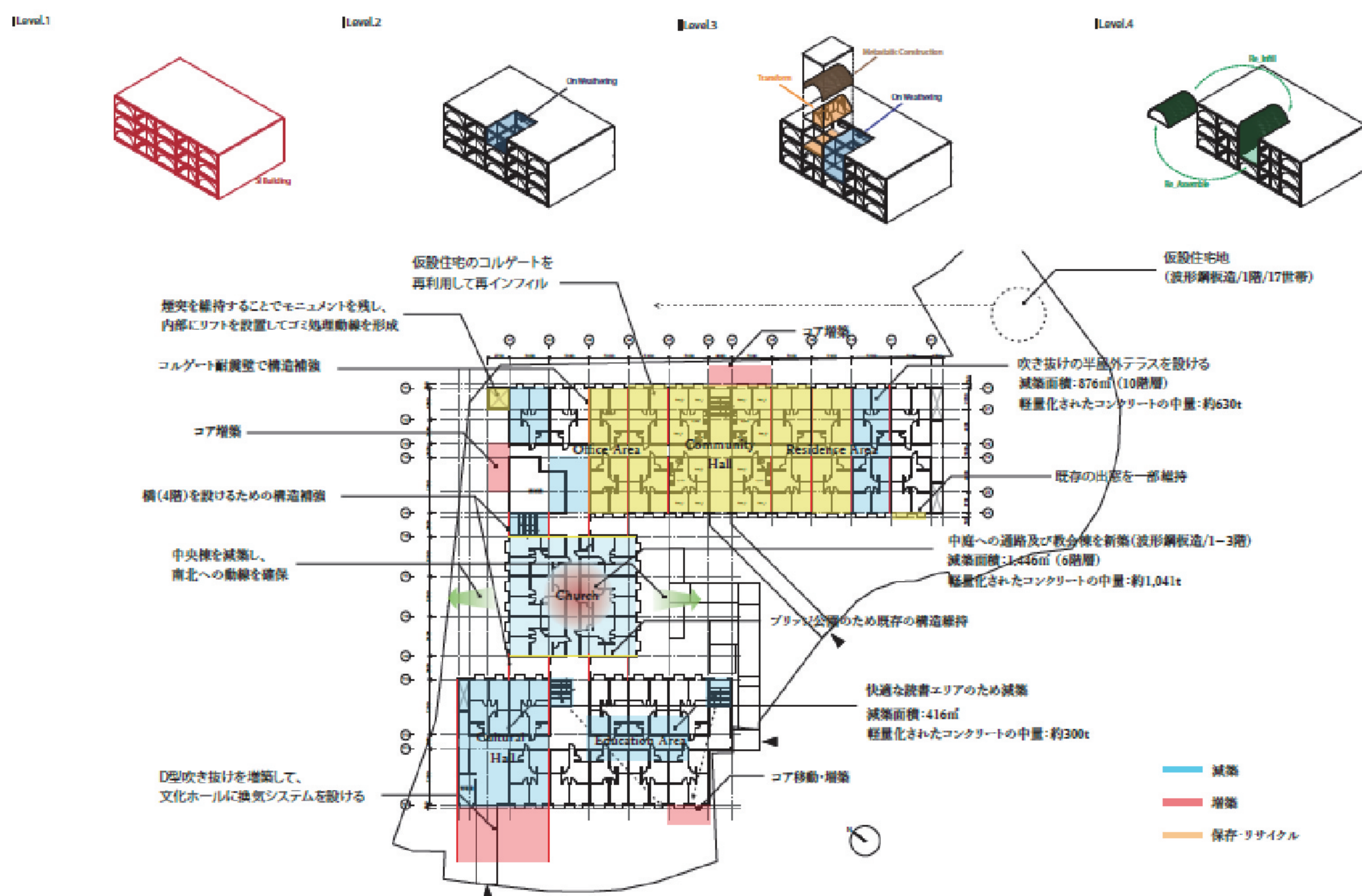


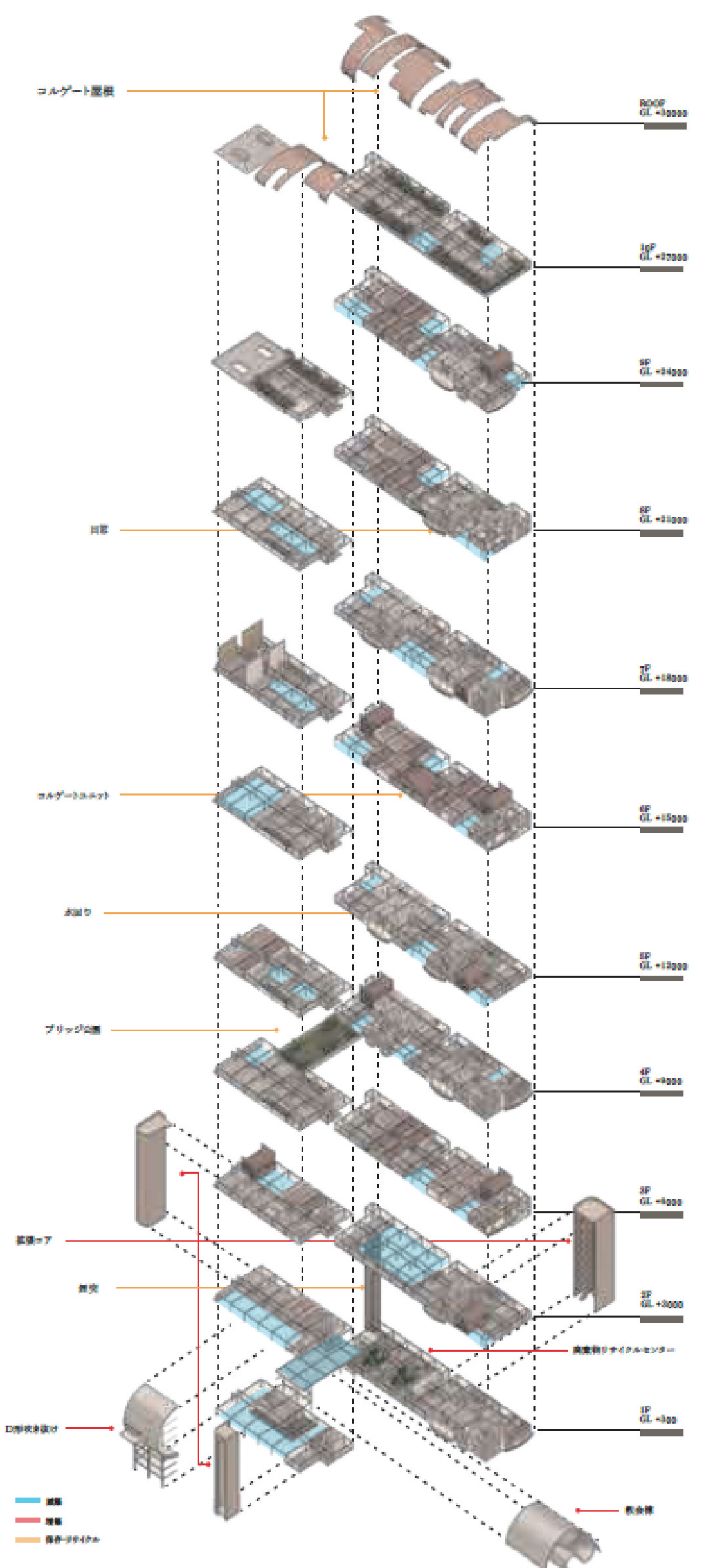
風化的減築を伴う都市型集合住宅の再生に関する研究及び設計提案

尹道現（光嶋研究室）



都市型集合住宅は機械的な大量生産により、近代時代の革新から第3機械時代のストックに転落しているのが現状であり、特に韓国の市民アパートは歴史的な公共的価値があるにもかかわらず、経済的合理性を理由にしてスクラップ・アンド・ビルドされ、會賢第2市民アパートが唯一に現存している。以上のような背景から、本研究では近未来におけるサステナブルな住環境の実現を目指した循環する都市及び建築を考える上で、「減築」に伴う都市空間、建築空間の変容及び転用を考える。また、時間によって変化する性能要求に対応するため、長期的に循環する自然風化の観点からヒントを得て、新たな建築再生手法である「風化的減築」を提示する。ある「風化的減築」を提示する。





A woman with dark hair, wearing a white sleeveless top and a backpack, is sitting on a large, colorful, abstract sculpture. She is holding a camera and smiling. The background shows a cityscape with a tall tower and a body of water under a clear blue sky.

SHAPE

ORIGINAL SHAPE

ORDER

Master/Plan
Landscape

Needs
Client
User

Main Concept

FORM

Scale - Function

Structure

Core

SHAPE

NEW SHAPE

macro

micro

Shape (デザイン) / Material (素材) / Style (スタイル) / Function (機能)

ボリユーム操作 (赤・青/黄・青・黄/黄操作)

形状	材料	スタイル	機能
立方体	赤	青	黄
立方体	青	黄	赤
立方体	黄	赤	青
立方体	赤	黄	青
立方体	青	赤	黄
立方体	黄	青	赤

デザイン言語

形状	材料	スタイル	機能
立方体	赤	青	黄
立方体	青	黄	赤
立方体	黄	赤	青
立方体	赤	黄	青
立方体	青	赤	黄
立方体	黄	青	赤

手法作成

旧2階外壁 (青タイル)

旧4階外壁 (白タイル+ガラス連続壁)

半外部

外部

既存手すり

改修前

真珠の丸さや積層感を重視した照明
応答速く、特定の利用者が
家族・アクセサリとして

時代や歴史を象徴するファニチャーとして外部に再設置

改修後

外側の空間
利用者と周辺住民を繋ぐものへ
新たな夜のファード

2D

3D

回廊壁面

元町駅

神戸駅

三宮駅

東灘地区

大塚駅

階段

階段化された空間で海との接続を部分別に設定

テラス・大階段

市道・緑地帯など
幅広い用途や時間
的に利用可能な

敷居・コモン

高層や低層など
異なる利用目的
をラベリングと利用の
階層

改修前

改修後

建築計画と都市計画を統合して「建築・都市計画」の両面から、都市の魅力を高めるための提案を提示する。

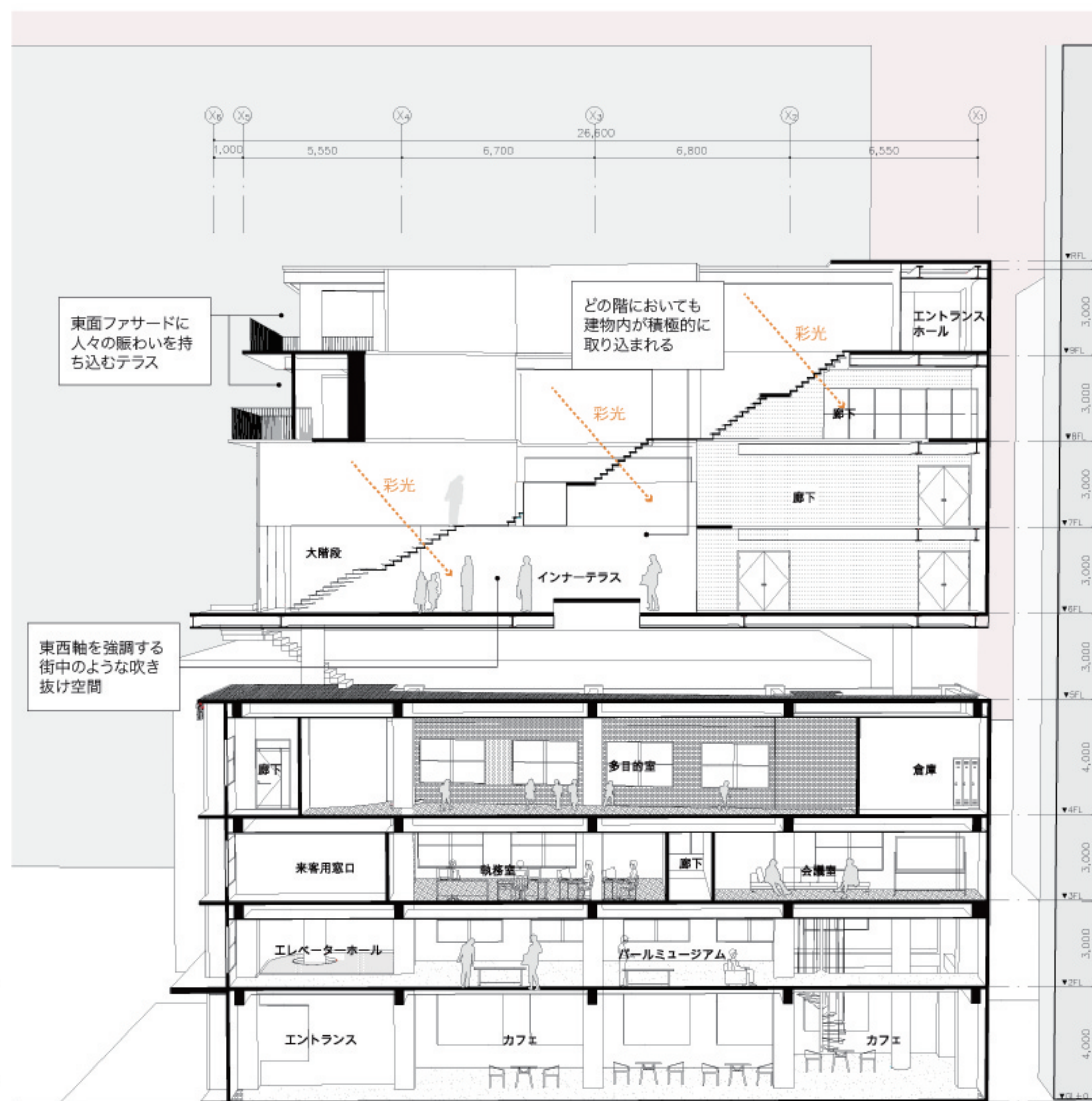
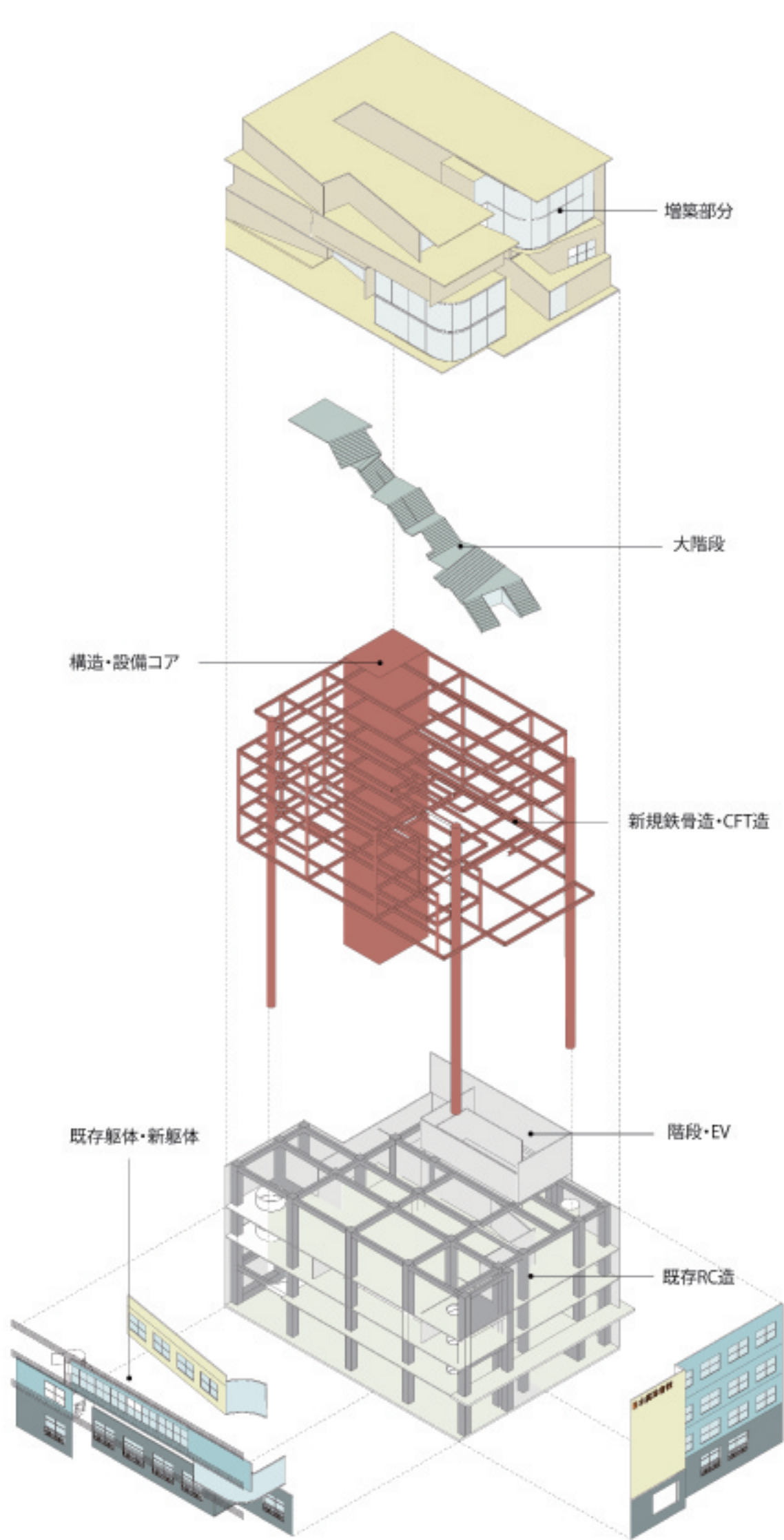
改修後

建築計画と都市計画を統合して「建築・都市計画」の両面から、都市の魅力を高めるための提案を提示する。

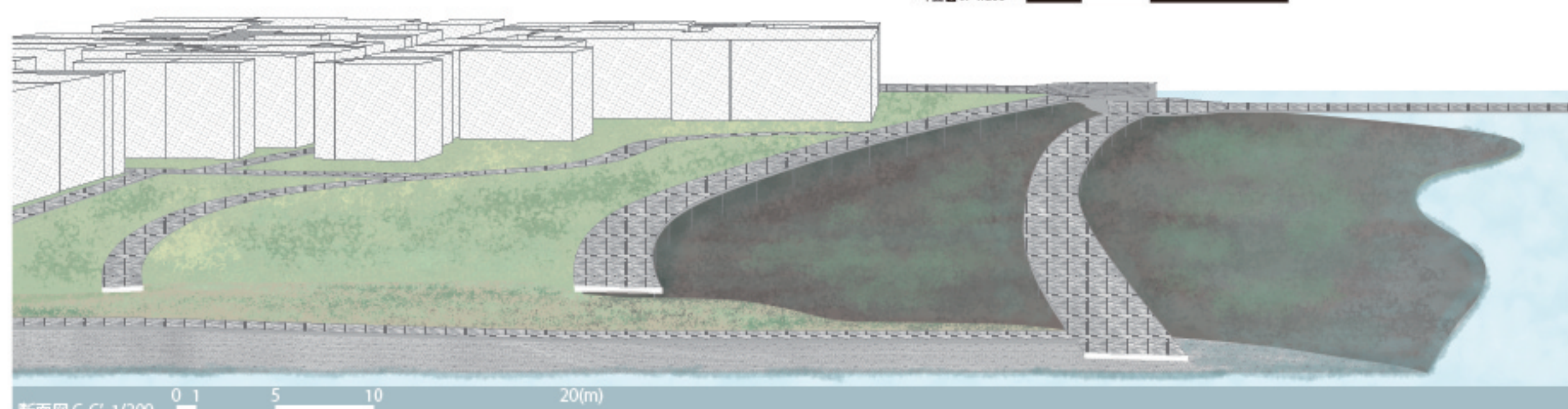
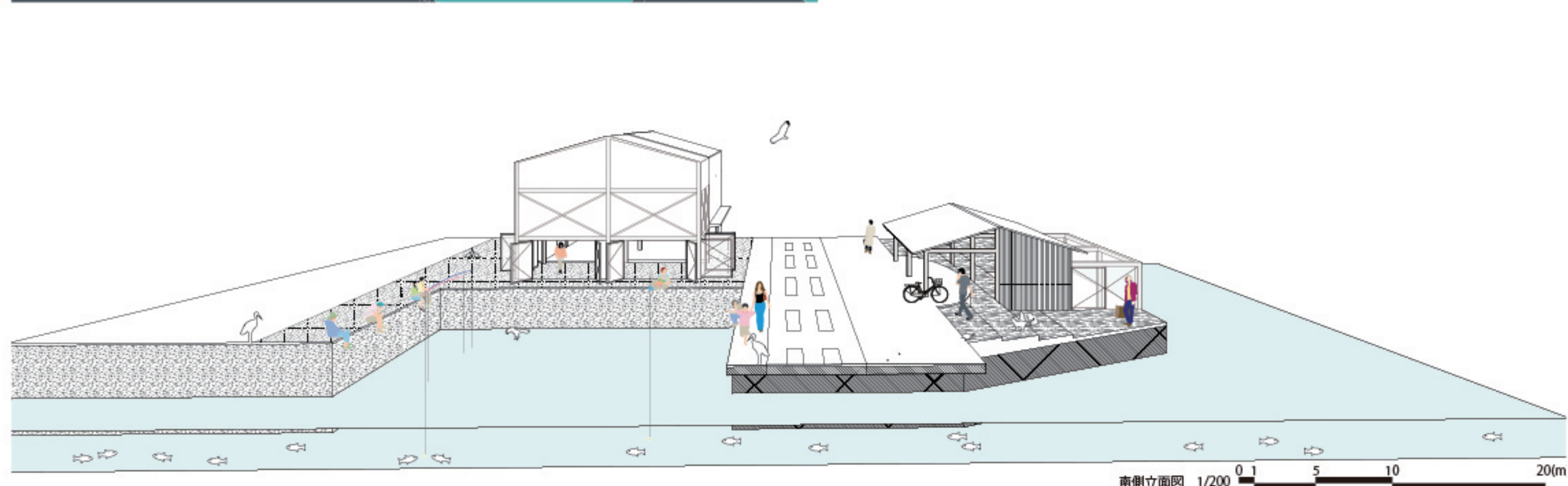
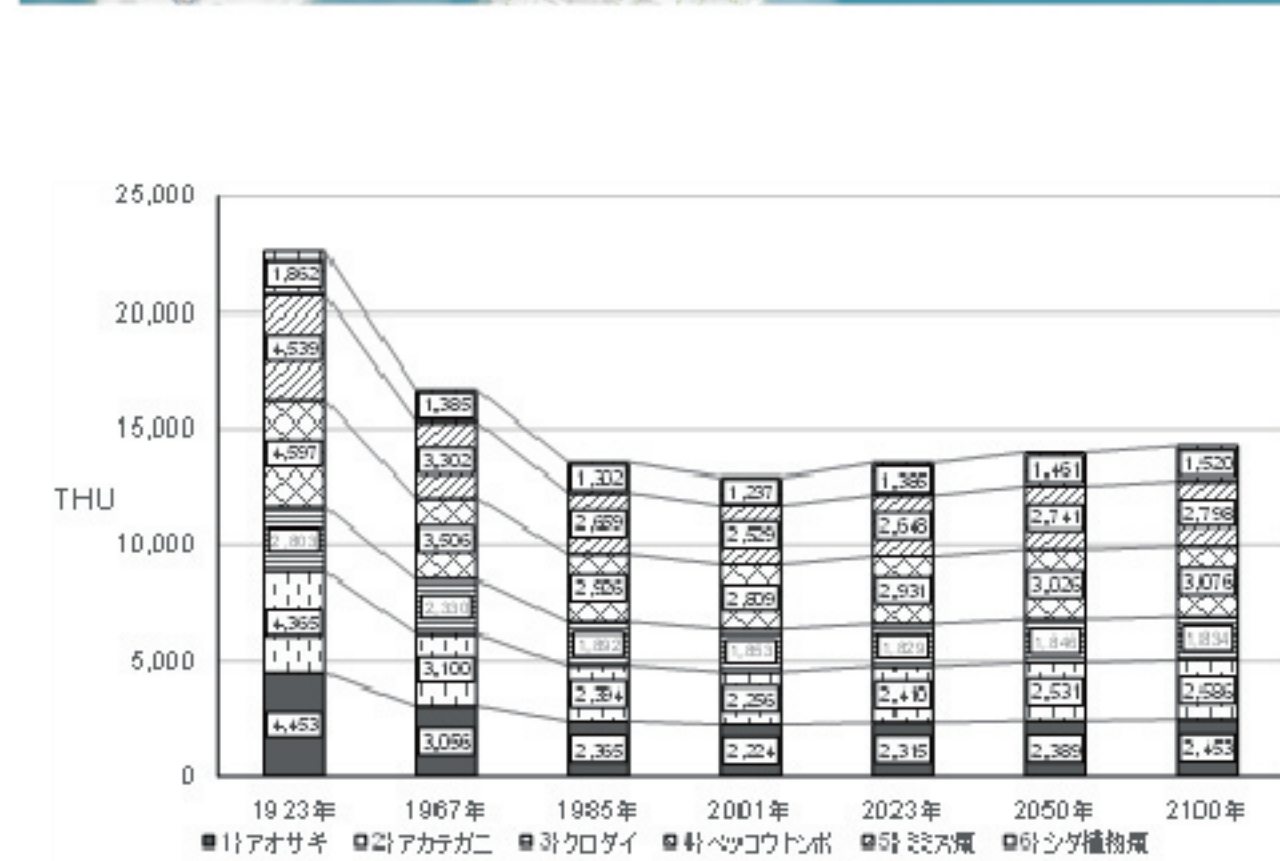
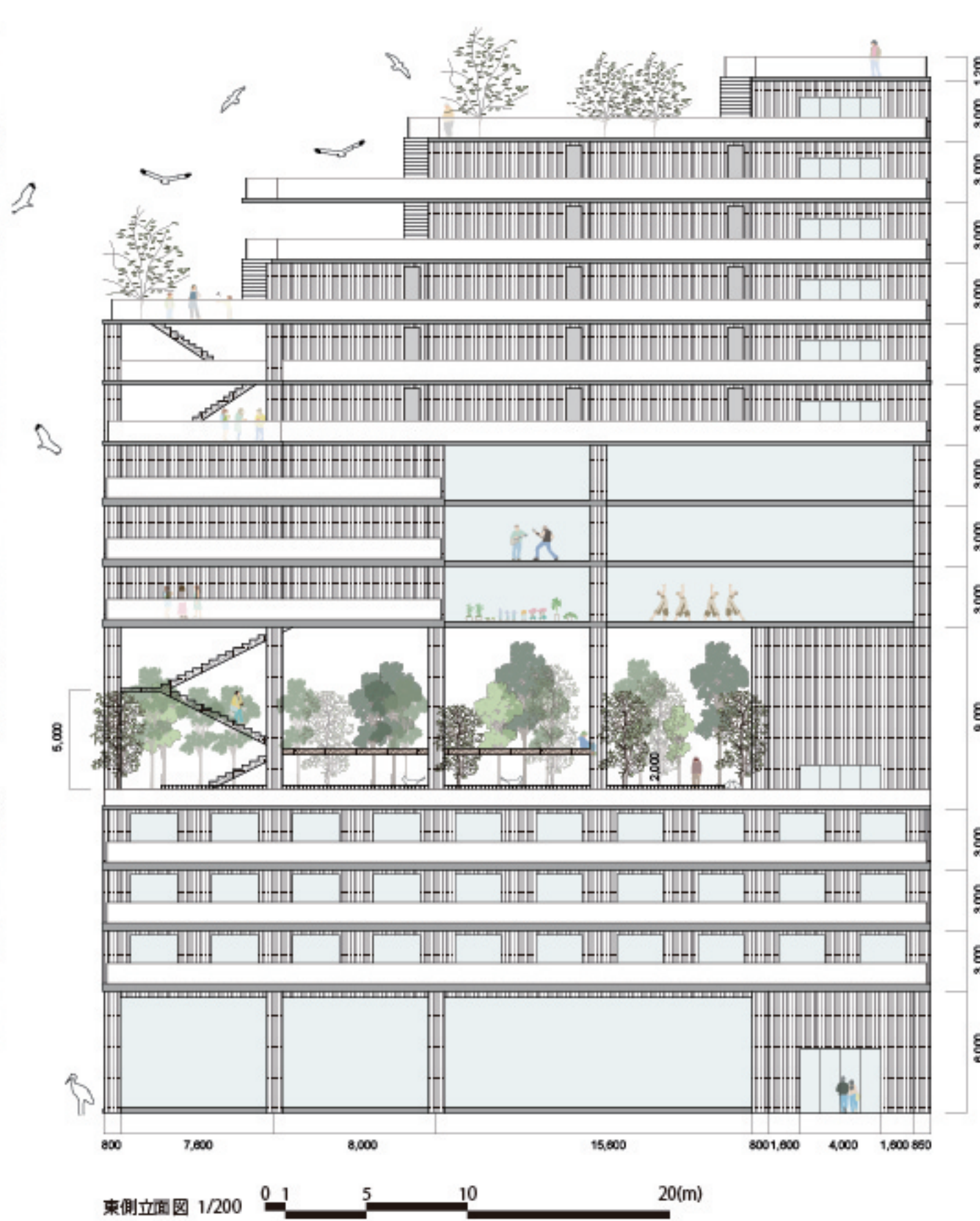
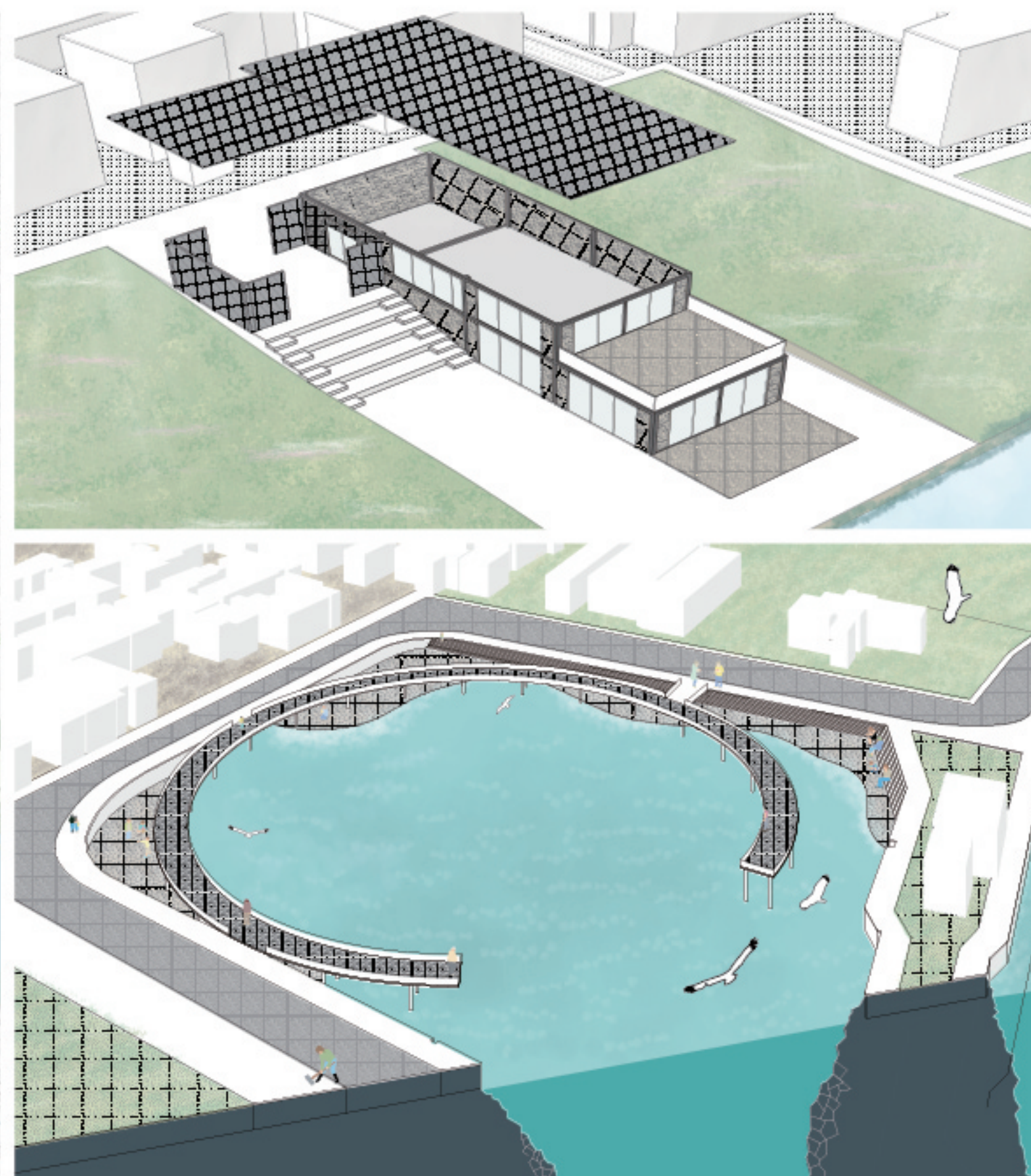
増築部分

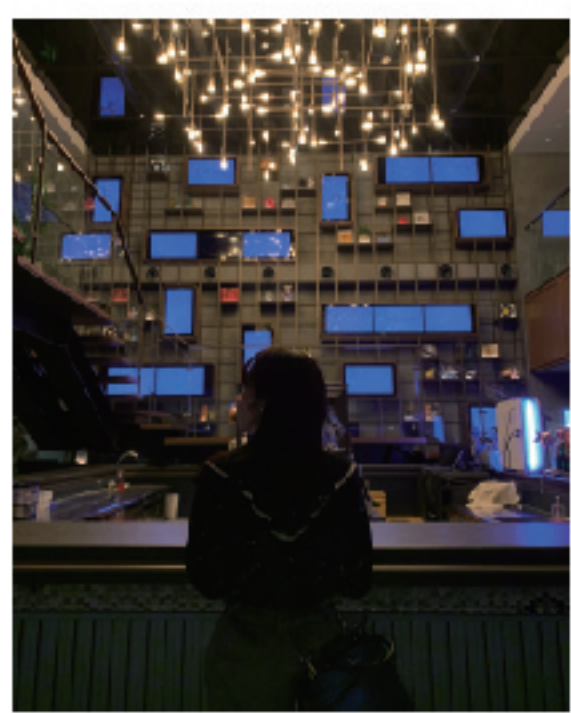
既存部分

手法①

A photograph of a person sitting on a large, dark, craggy rock. The person is wearing a dark blue polo shirt and light blue shorts. They are looking towards the camera. Behind them is a vast expanse of blue ocean meeting a bright blue sky with scattered white clouds. The horizon line is visible in the distance.

This aerial photograph shows the proposed development site in the City of London, situated along the River Thames. The site is highlighted in a light blue/grey color, contrasting with the surrounding urban fabric. The River Thames flows through the center of the image, with several bridges crossing it. The surrounding area is densely built up with various types of buildings, including residential and commercial structures. The proposed development is located in a central area, bounded by the River Thames to the south and east, and by existing buildings and infrastructure to the north and west. The image illustrates the site's location within the broader context of the City of London and its proximity to the River Thames.

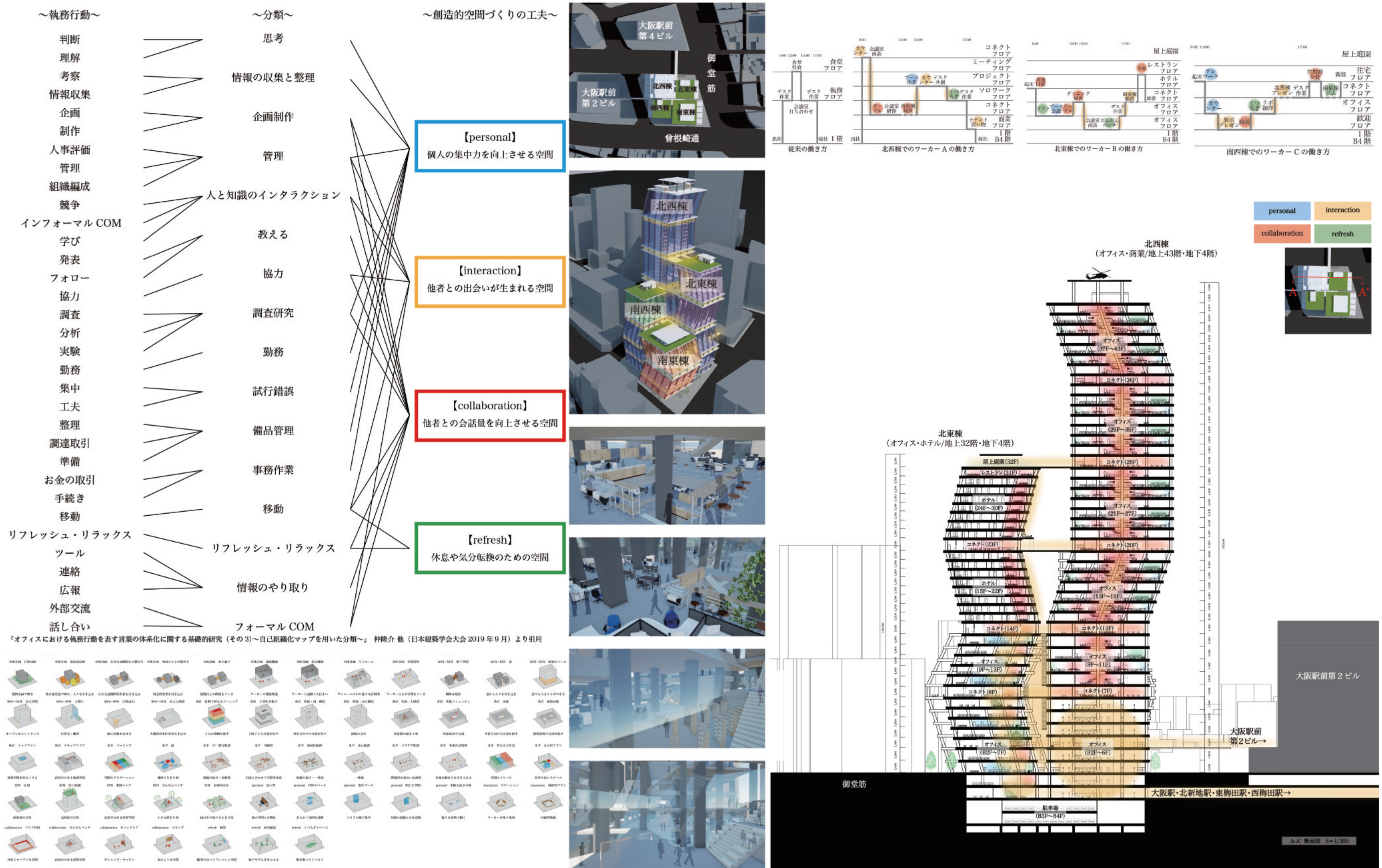




ハイブリッドワークモデルを導入した創造的都心空間の研究及び設計－大阪梅田地区への提案を通じて－

阪上由佳（槻橋研究室）

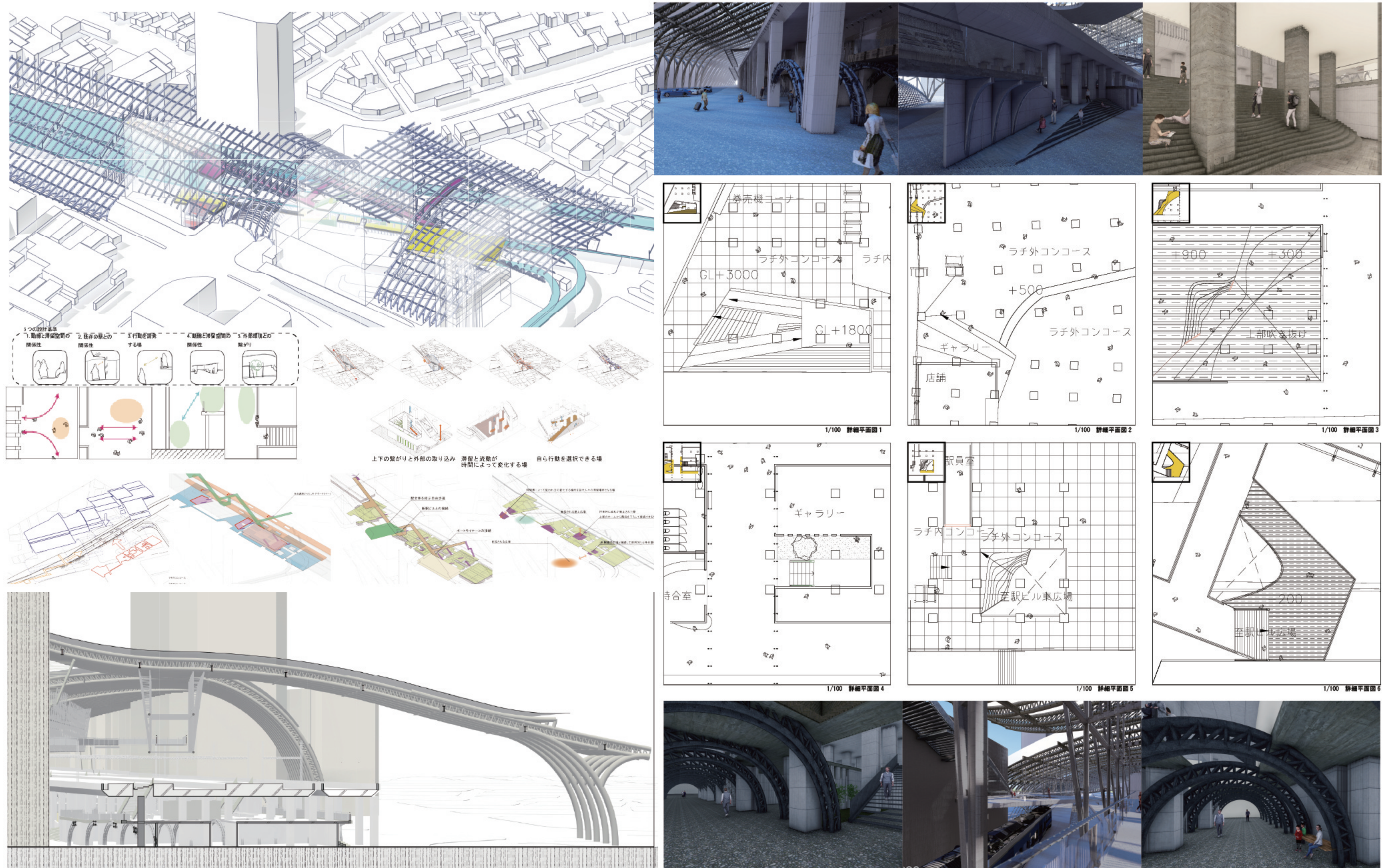
本研究では、「ハイブリッドワークモデル（オフィスワークとテレワークを組み合わせたワークモデル）」が浸透した現代において、都心空間が抱える「オフィス余剰床」という問題に着目した。予測されるオフィス余剰床を有効化するために挿入する「創造的空間」の設計手法について検討を行なった。得られた知見をもとに、大阪梅田地区における大阪駅前第3ビルを対象として、これからの都心空間のあり方を提案するとともに、都心空間の再生ができる可能性を示した。



駅のラチ外コンコースにおける空間利用の可能性に関する研究及び設計手法－神戸三宮を対象として－

眞下健也（光嶋研究室）

本研究では既存の駅における文献調査及び実地調査を元に、これからのコンパクトシティにおいて人々の滞留を許容するラチ外コンコースを備えた駅の考察を行い、豊かな駅空間に必要な条件を提示した。設計ではこれらを元に神戸三ノ宮を対象に既存の路線を包括する、人々の社会活動を許容する都市と一体となった駅の提案を行った。また、本研究で得られた成果をもとに、京都駅東南部エリア（都市計画見直しに伴う制限緩和の対象エリアの一つ）を対象地としたゲースタディとして、テナント複合型共同住宅およびオフィスと、それらに総合設計制度を用いた公開空地の設計提案を行う。



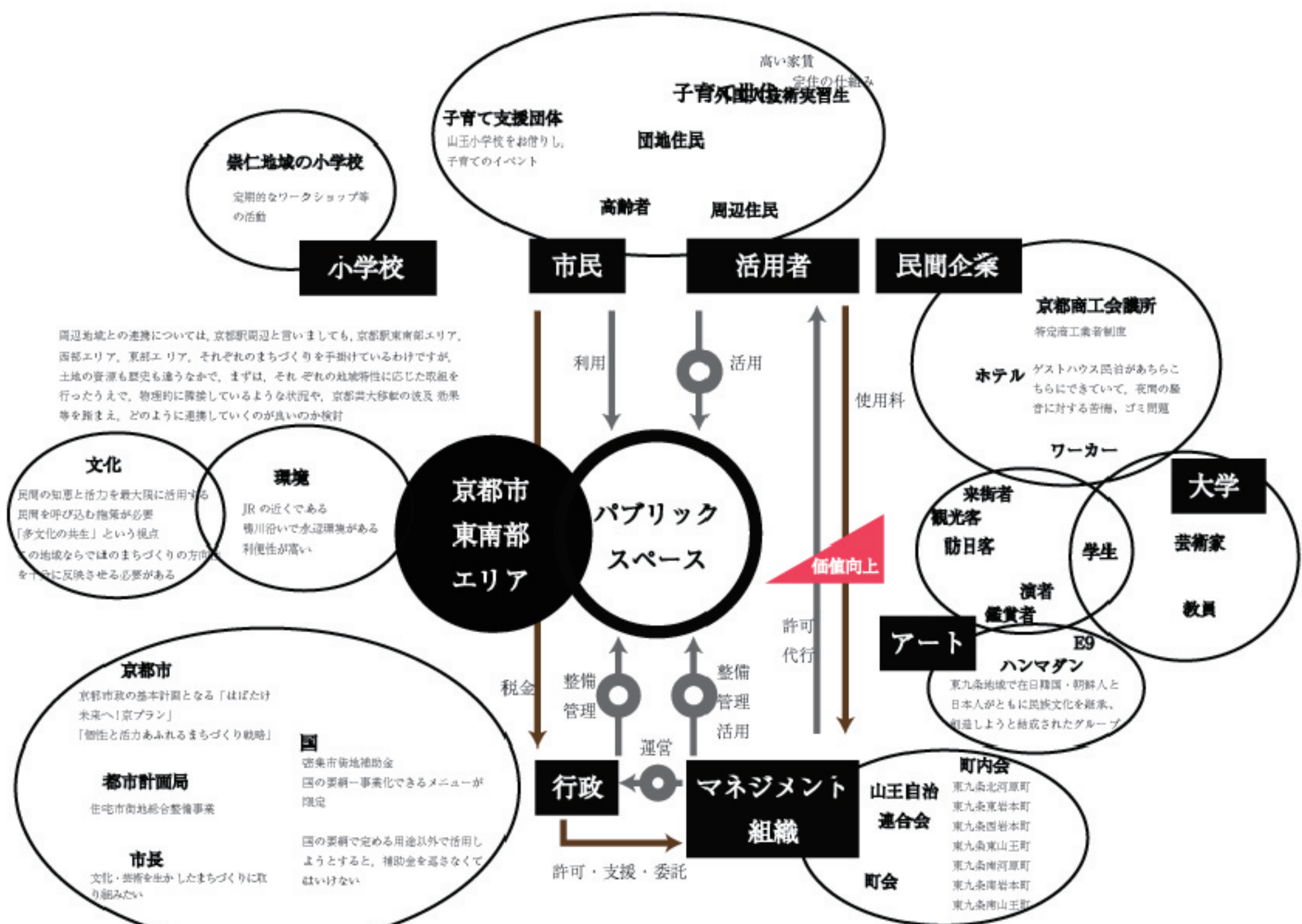


持続性と個性ある都市環境の実現に向けた公開空地利活用に関する研究及び設計提案ー京都市都市計画見直しに伴う都市化を見据えた、京都駅東南部エリアを対象地としてー
松岡 絢加（光嶋研究室）

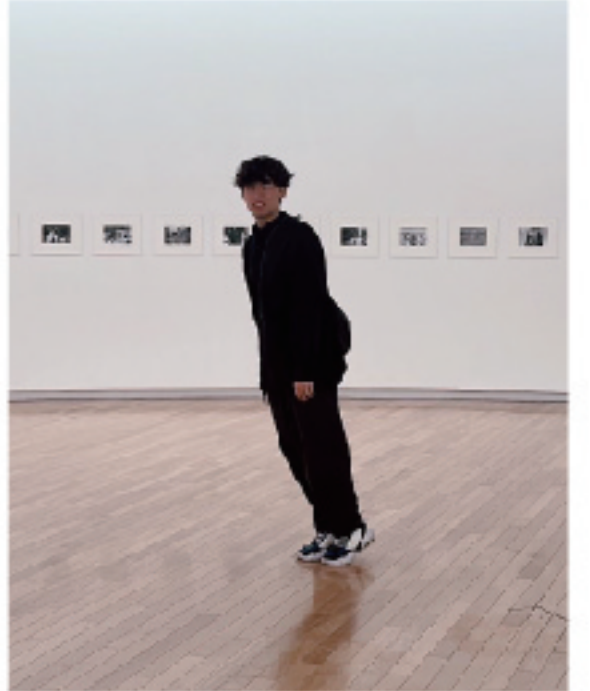
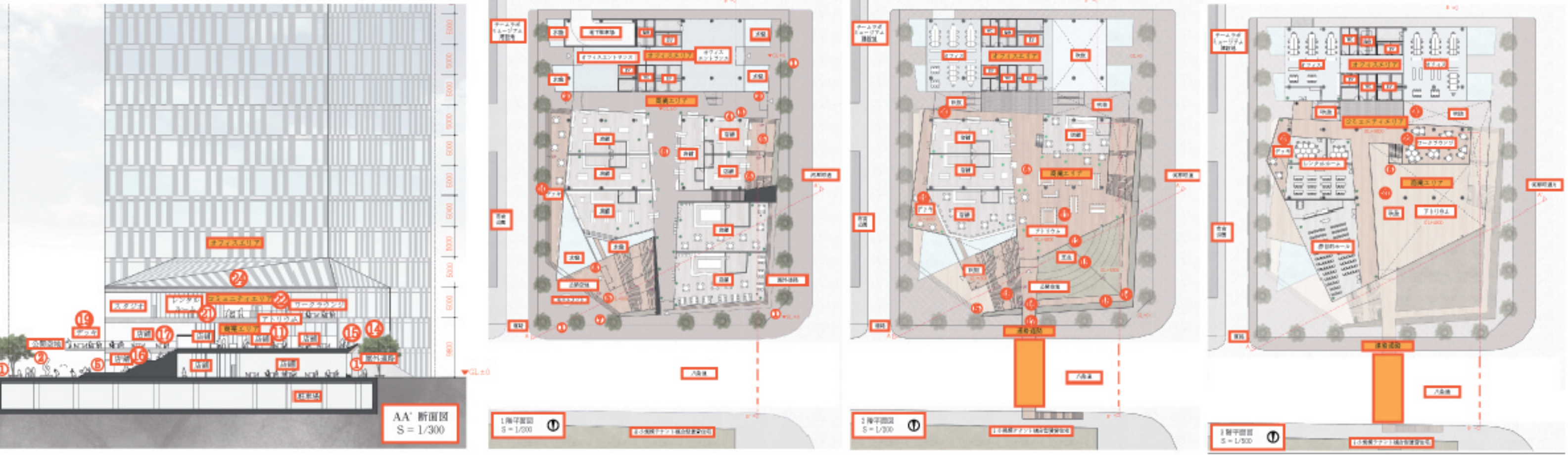
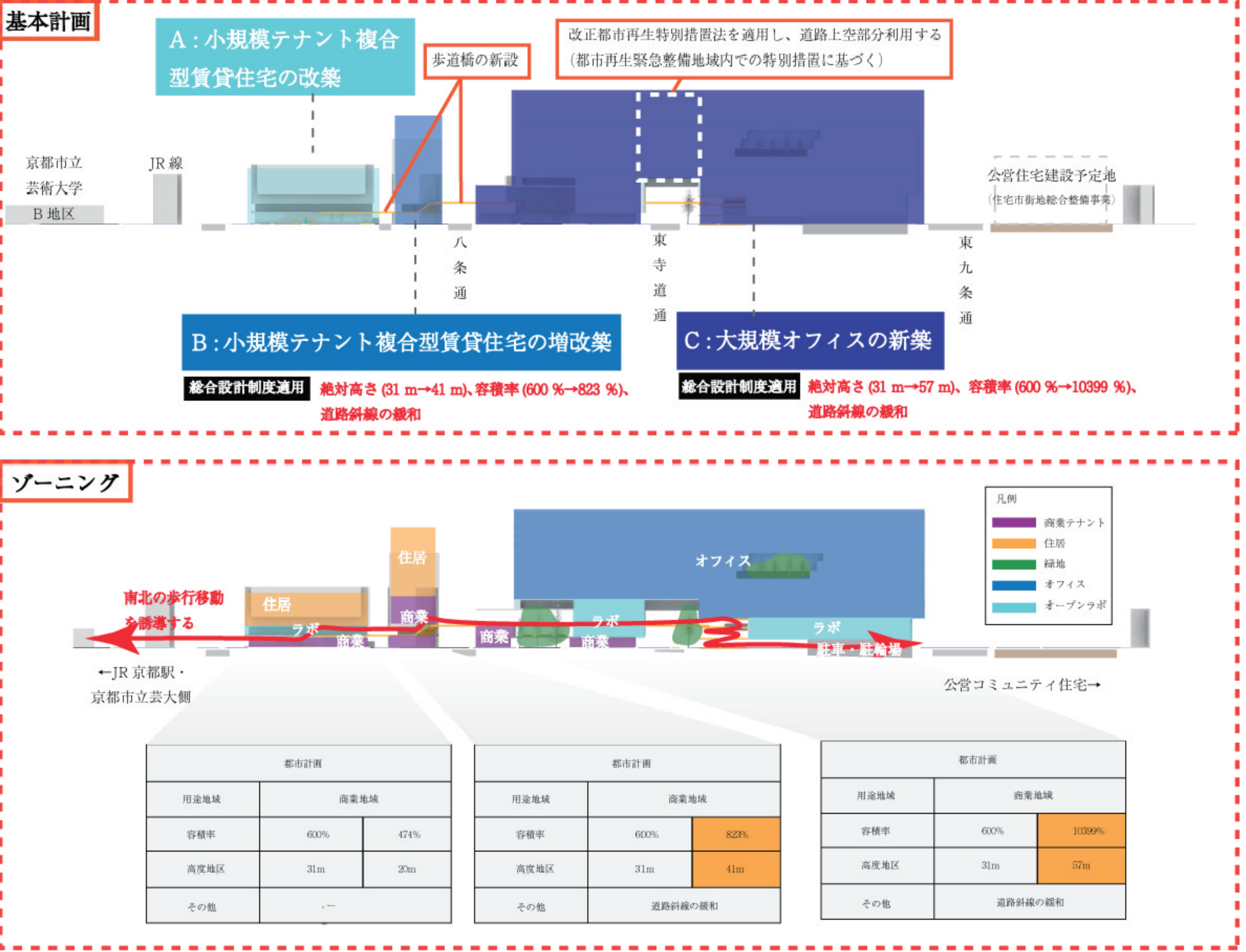
本研究では、今後都市化の機運が高まる京都市において、都市化に伴って増加が見込まれる公開空地の利活用に向けた示唆を得ることを目的として、制度変遷や統計、文献資料の整理および分析を行い、利活用実態について調査した。また、得られた成果をもとに、京都駅東南部エリア（都市計画見直しに伴う制限緩和の対象エリアの一つ）を対象地としたケーススタディとして、テナント複合型共同住宅およびオフィスと、それらに総合設計制度を用いた公開空地の設計提案を行った。



河原町通から C: オフィスと B: テナント複合型賃貸住宅の外観を望む

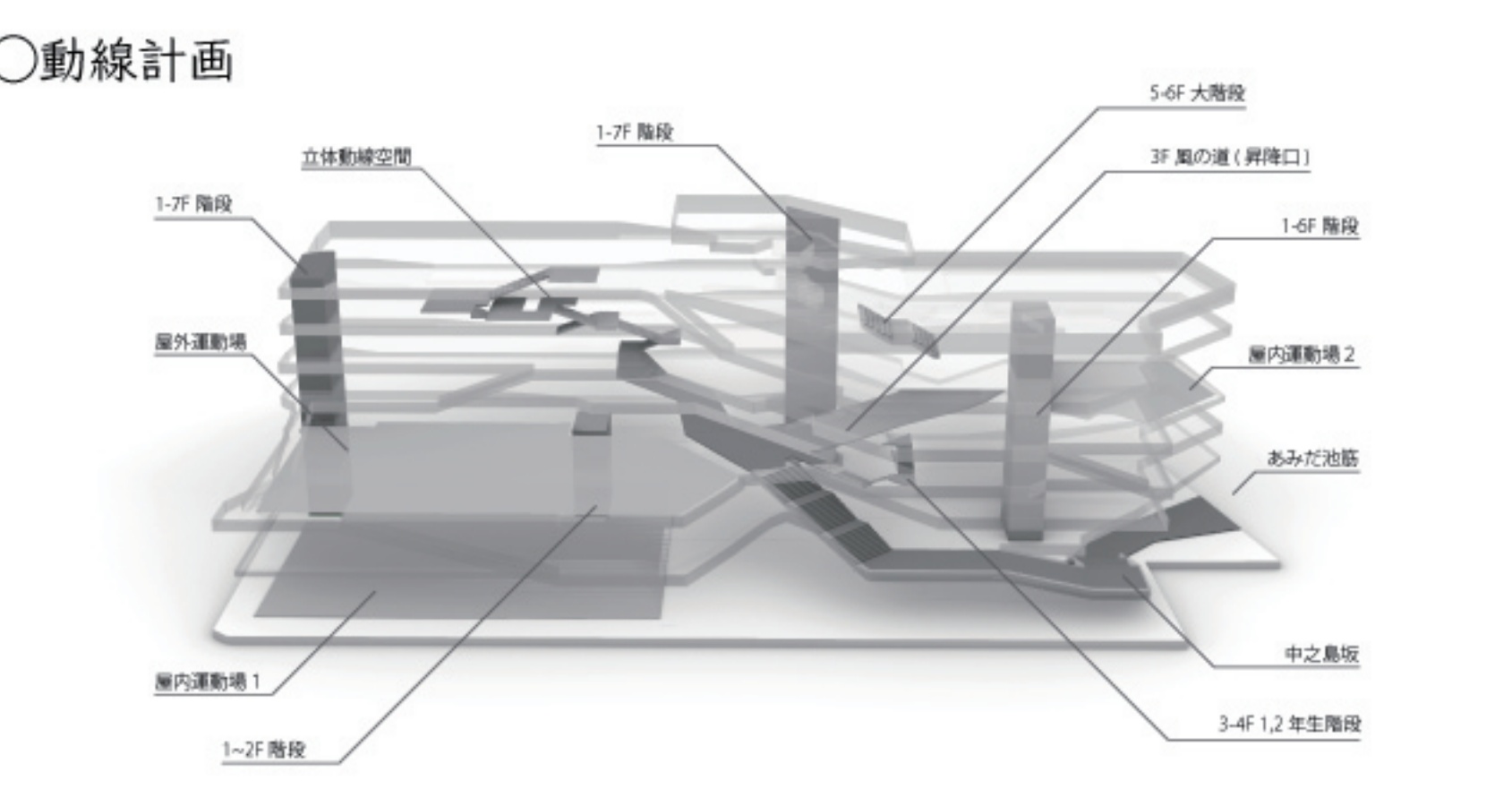
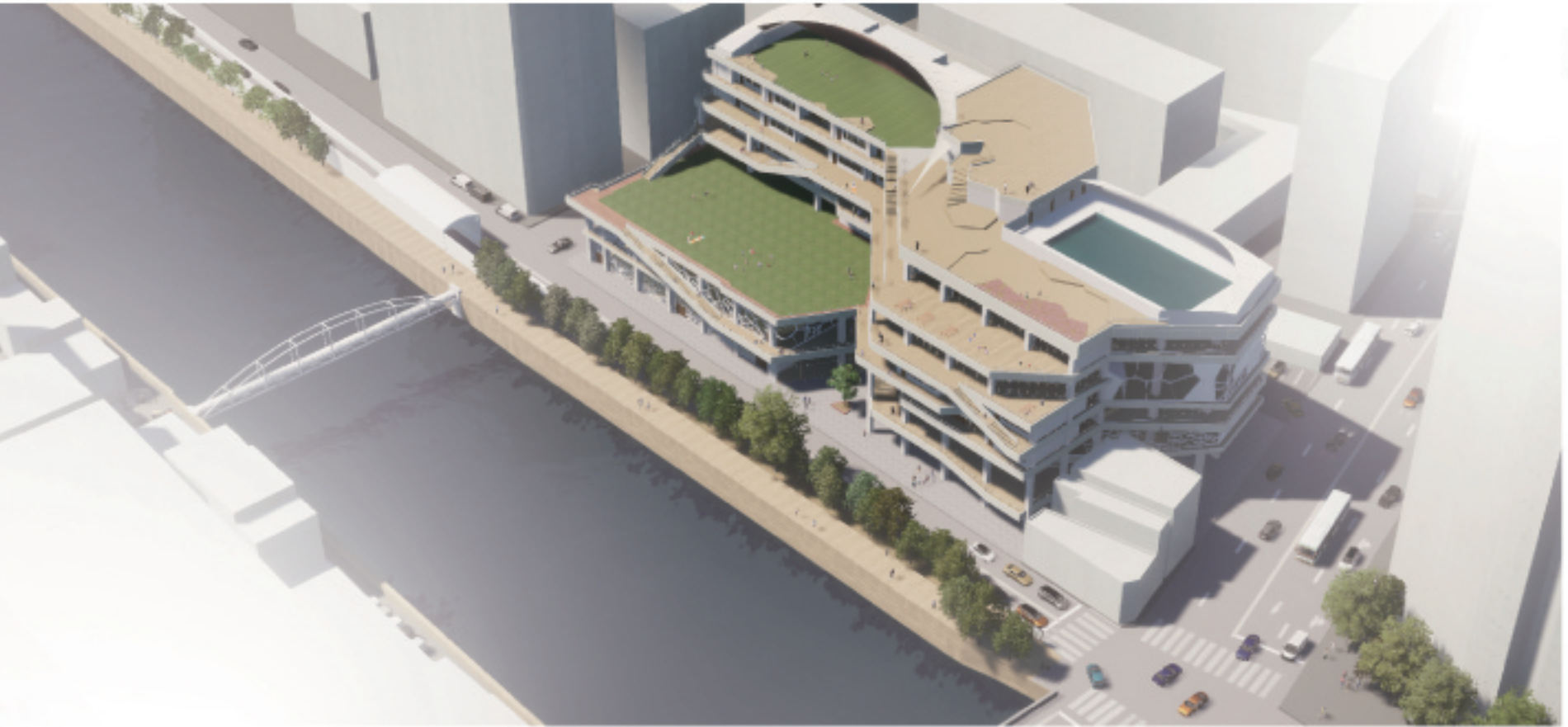
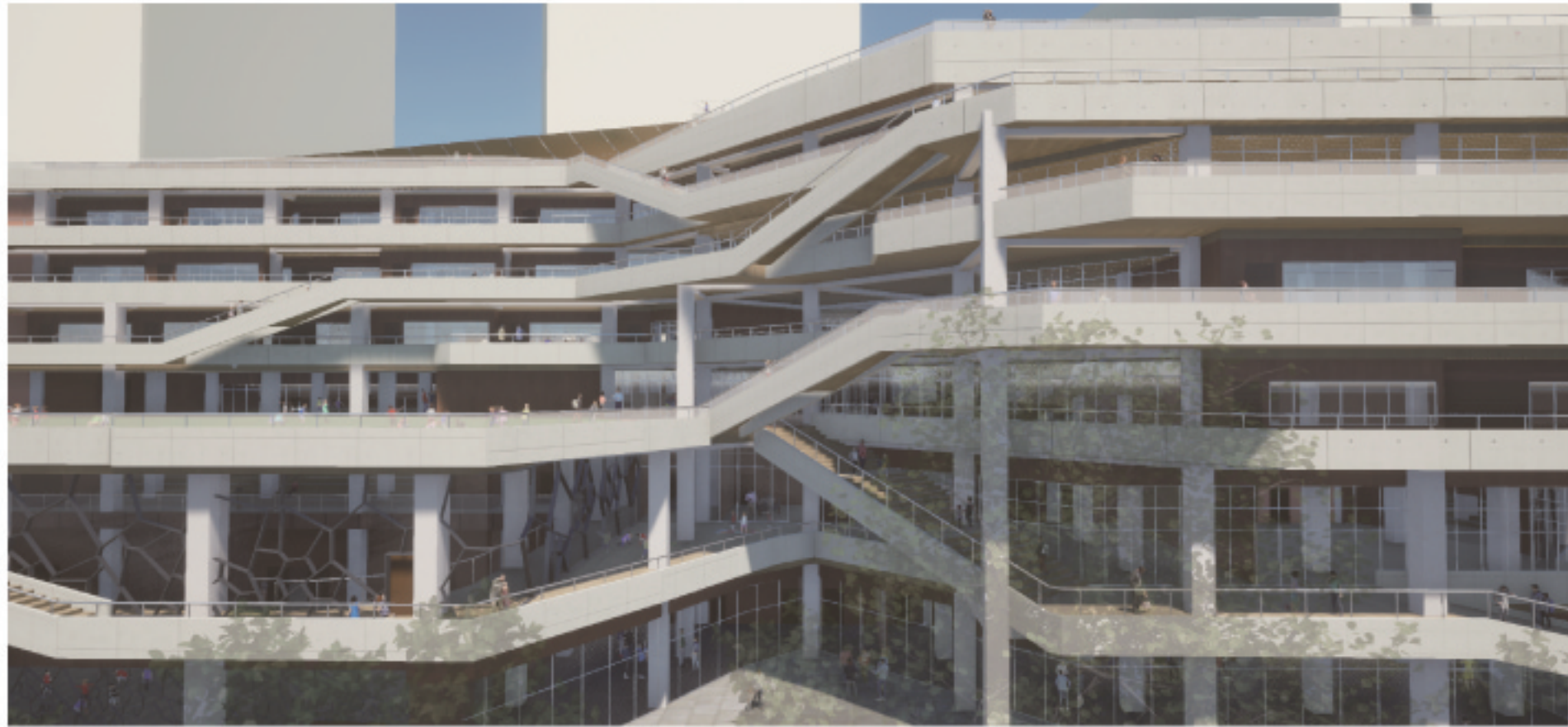


ステークホルダーの関係性を示すワークダイアグラム

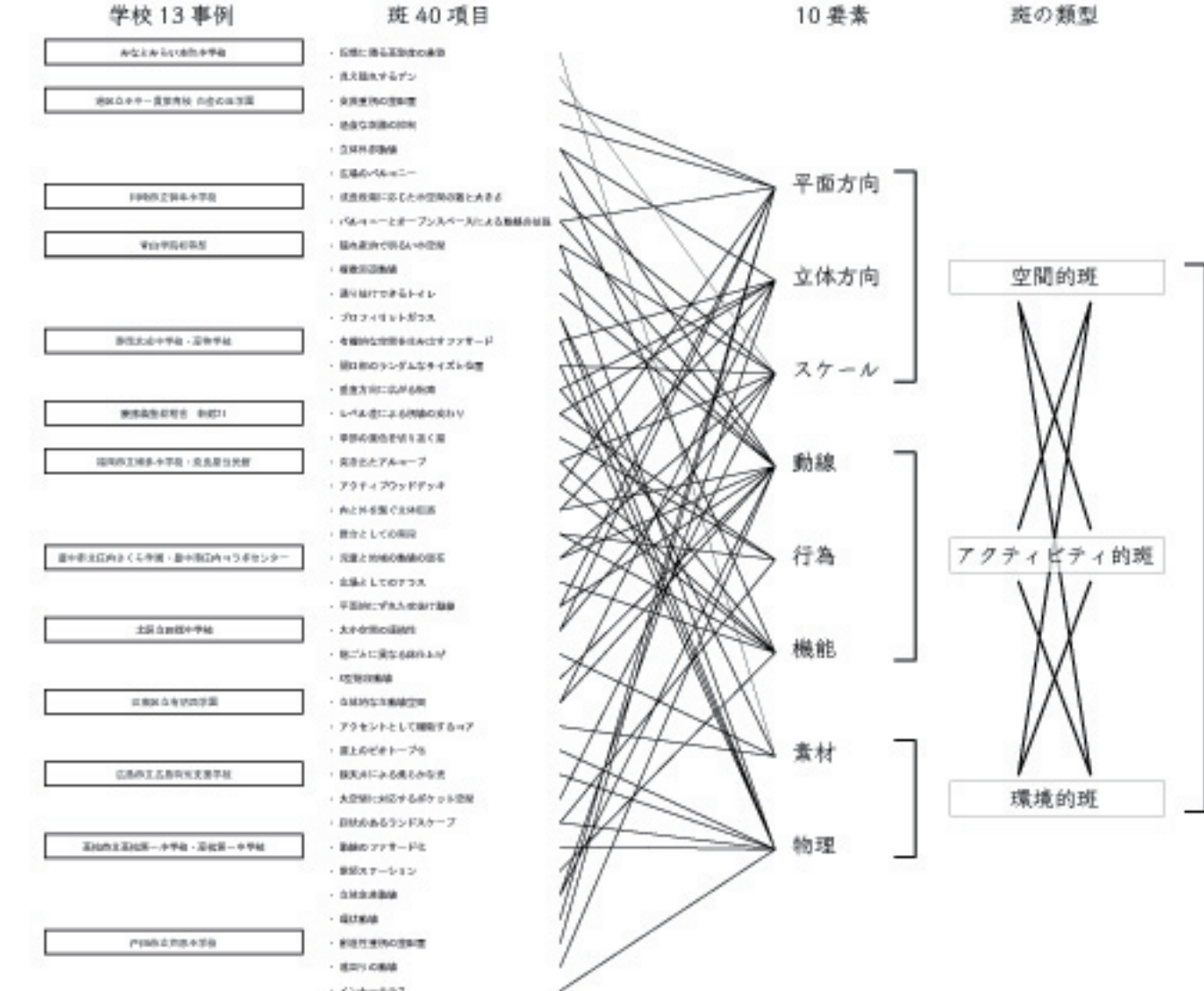


学校建築において積極的快適性を獲得する建築的斑空間に関する研究及び設計提案 - 都市型高層学校建築の類型化を通して -
本山有貴（光嶋研究室）

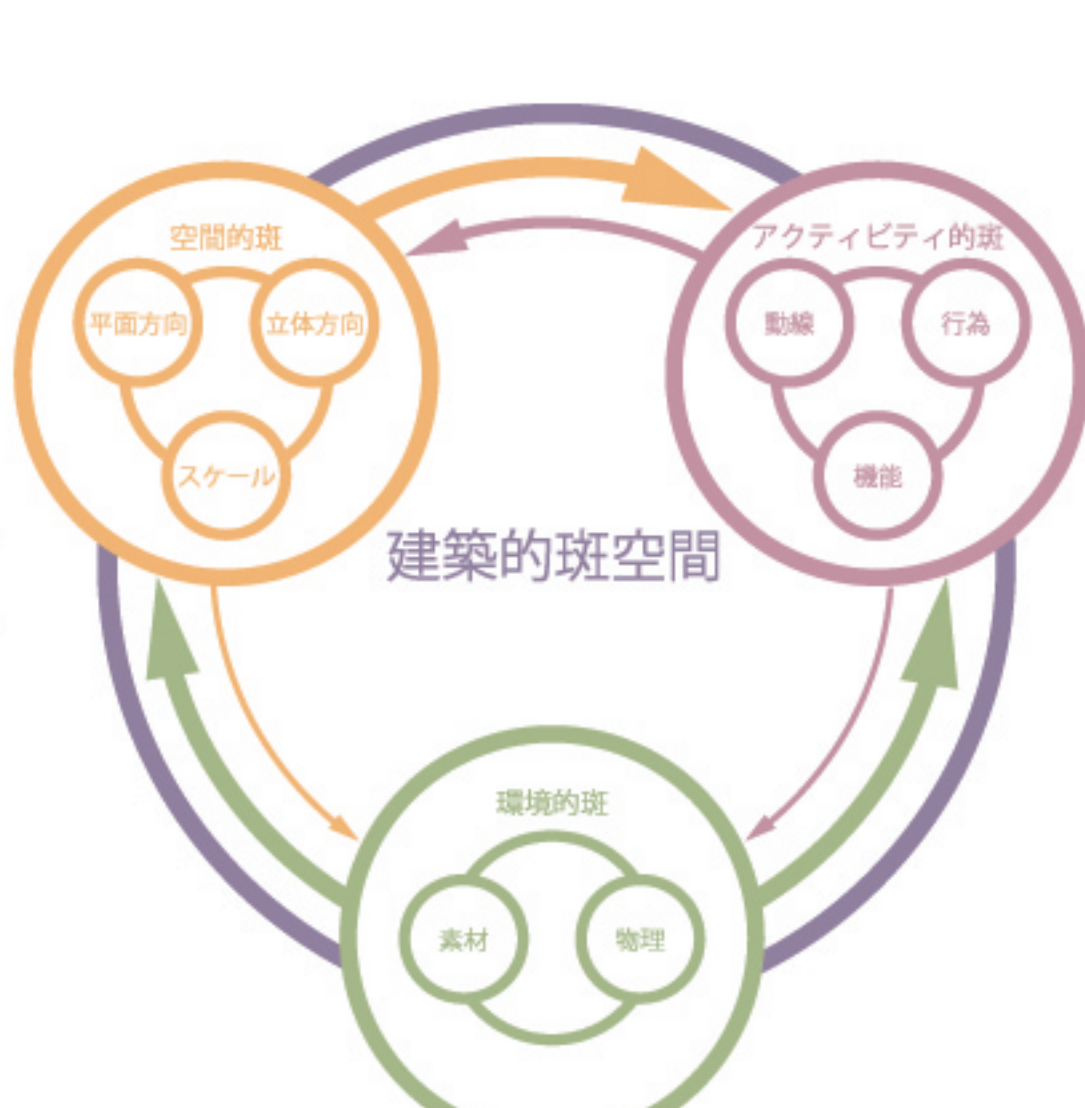
科学技術の発達によってシェルター化が著しい都市建築空間において、「積極的快適性」という現代の私たちが気付かぬ内に求めている快適性を獲得する建築デザイン手法を、豊かな快適性と関係性の強い学校建築における児童動線や行為、空間・環境との関わり合いなどに着眼した分析と分類から「建築的斑空間」を定義し、建築デザイン手法として展開した。また中之島小中一貫校を設計対象とし、本研究で得られた知見を通して「建築的斑空間」を持つ建築の可能性を具体的に示した。



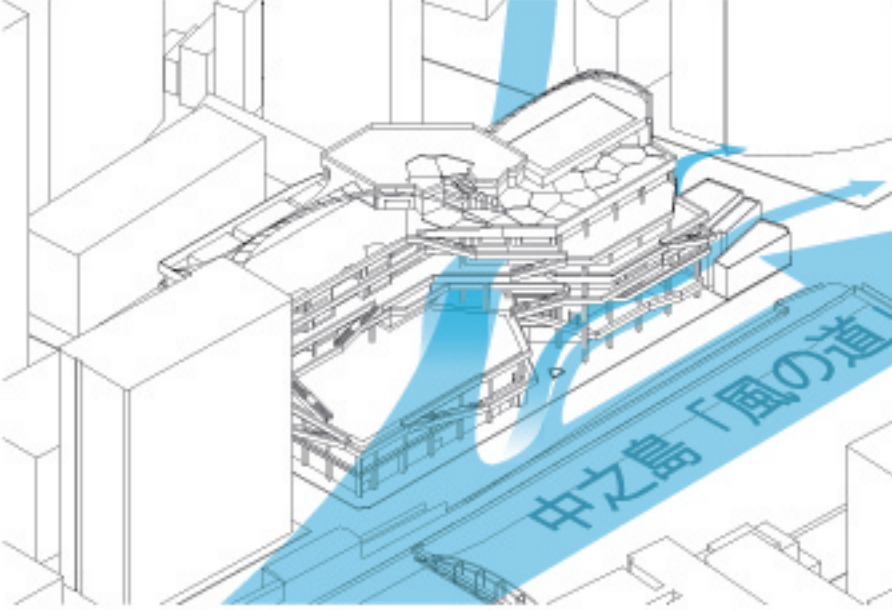
○斑の類型化ダイアグラム



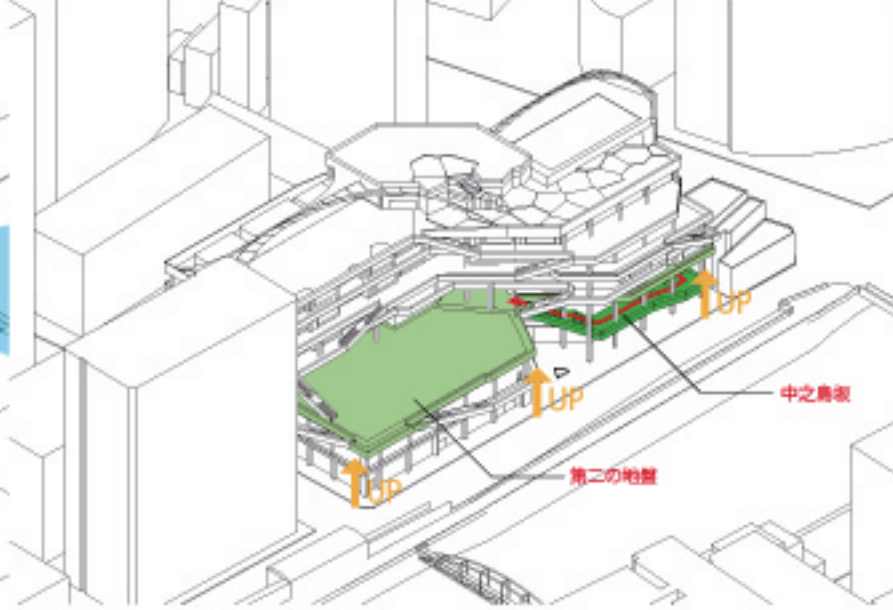
○斑の関係性ダイアグラム



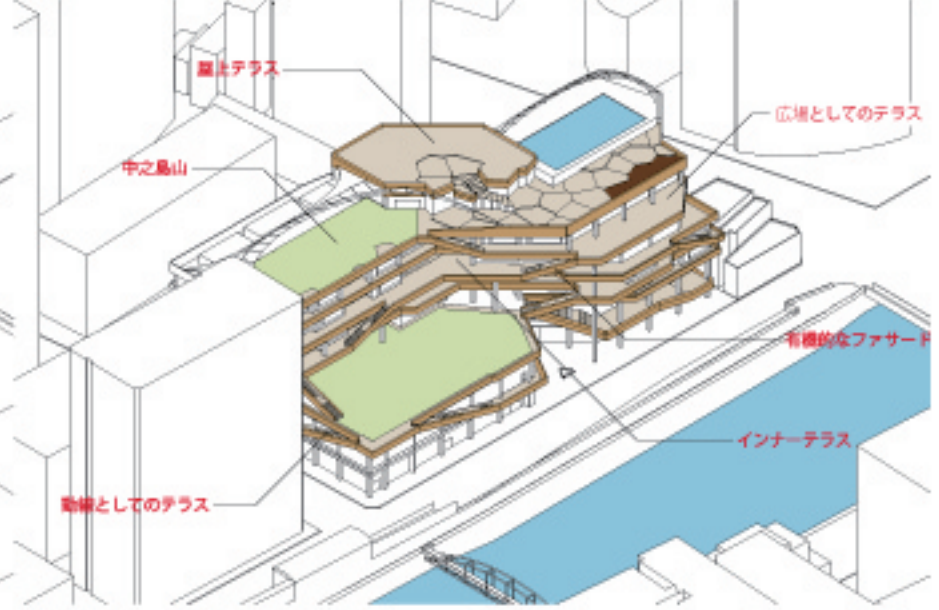
○風の道



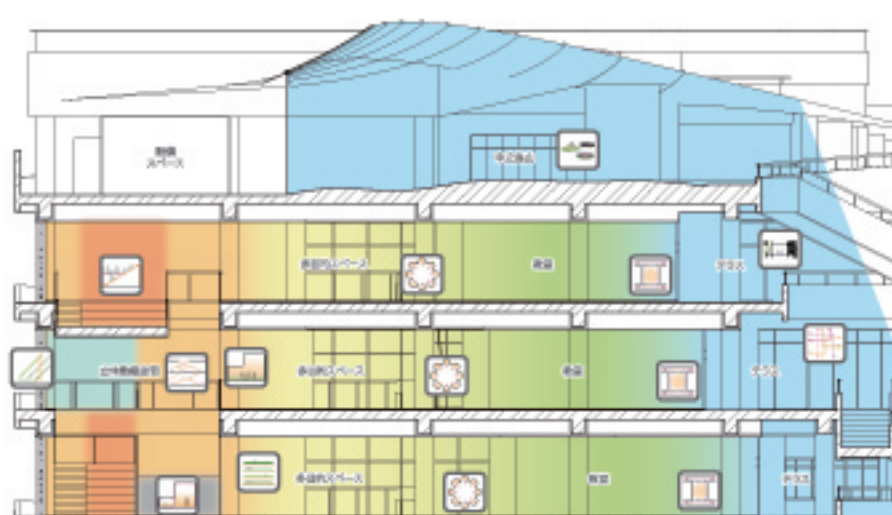
○第二の地盤



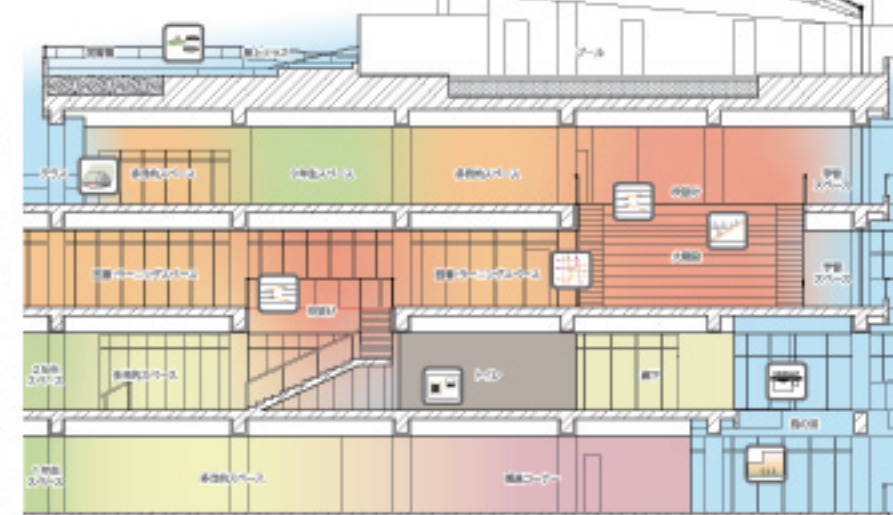
○外部計画



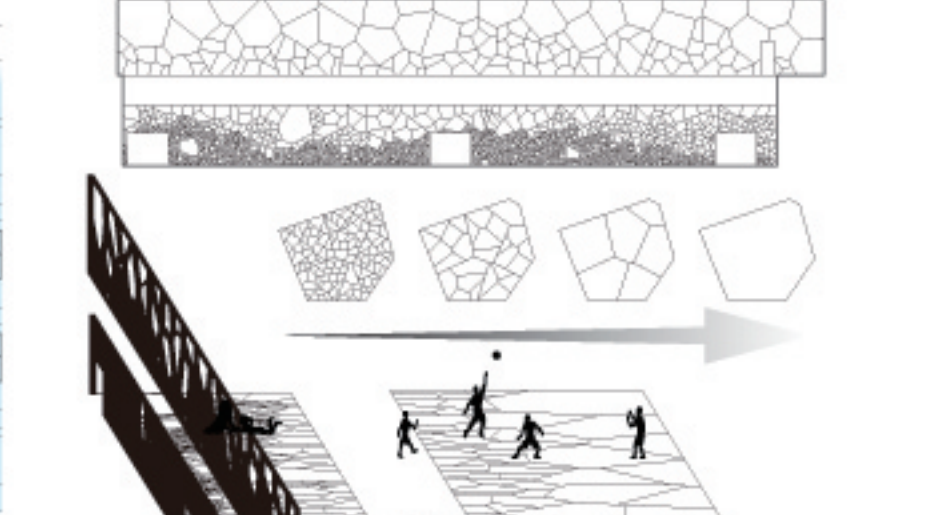
○多様な共有空間



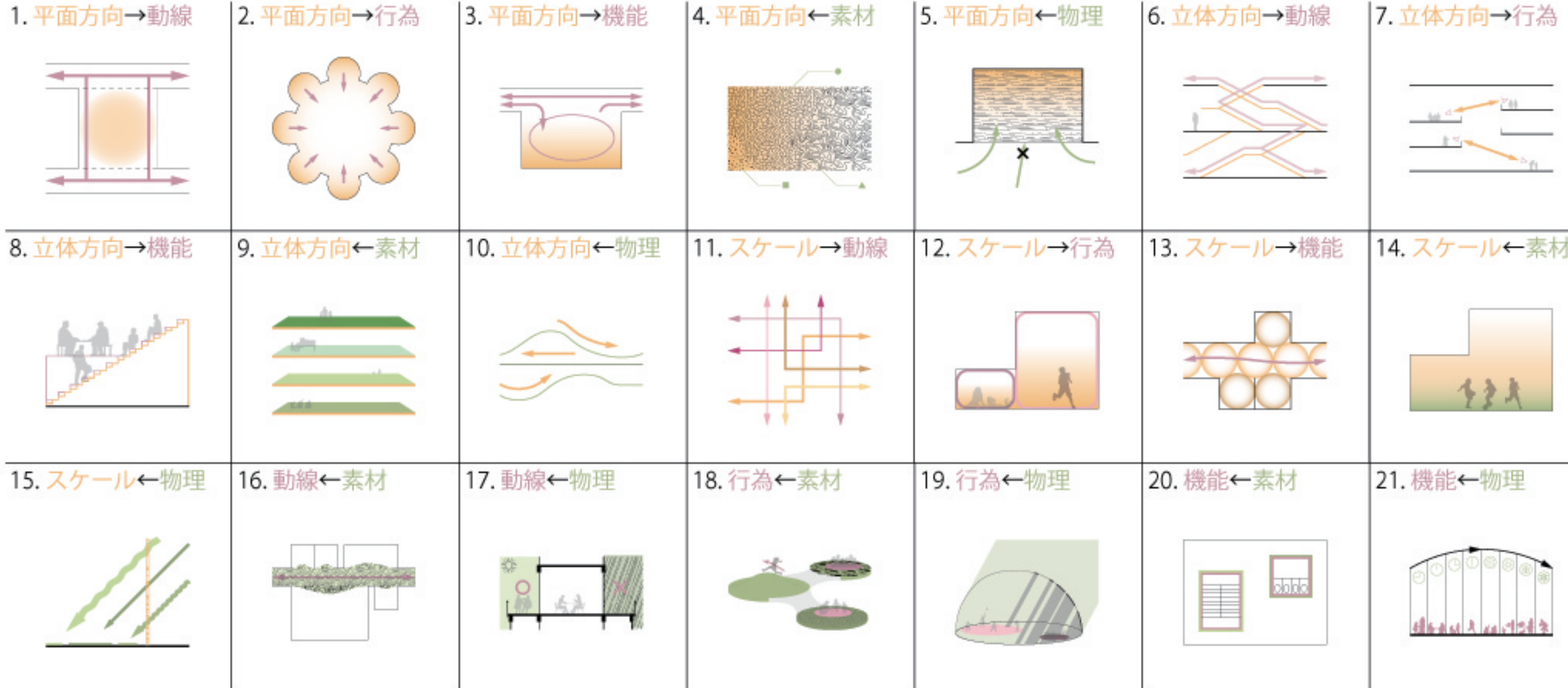
○連続吹抜け



○2方向のファサード



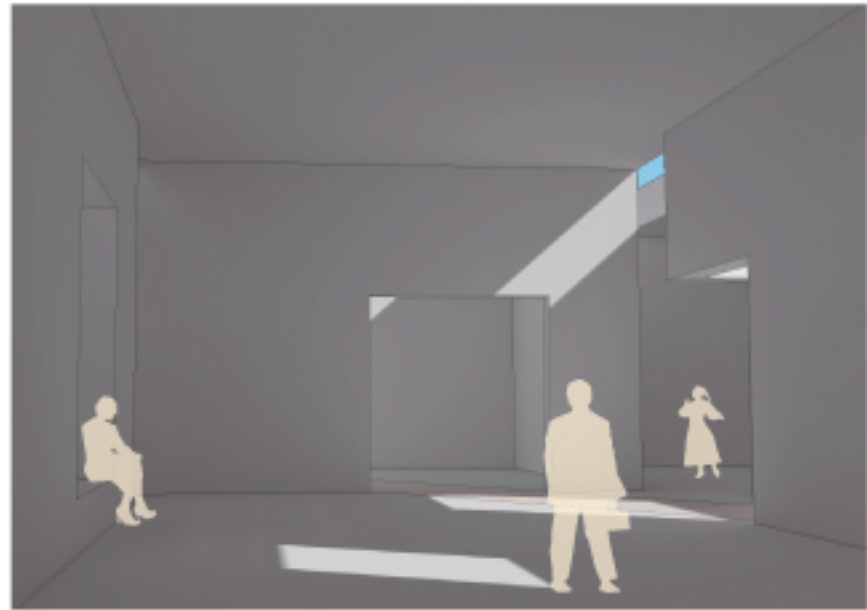
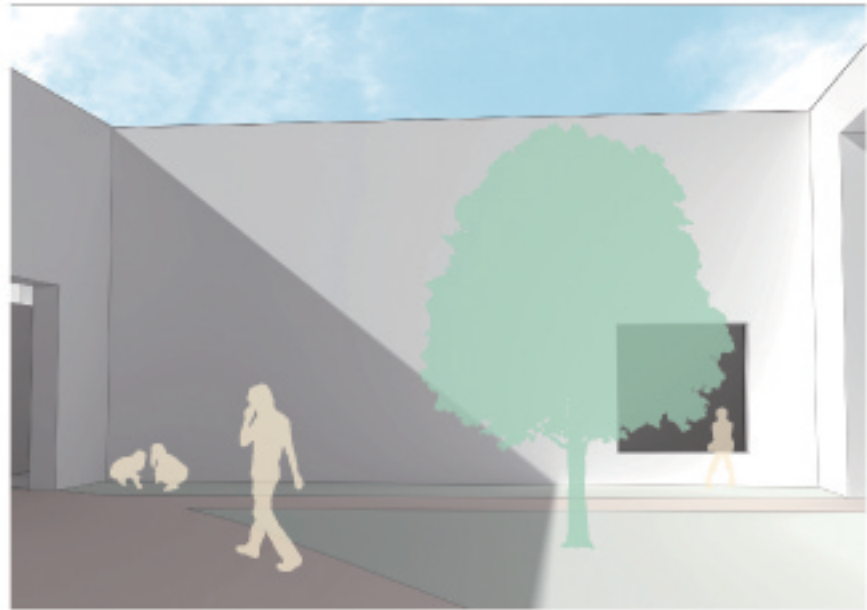
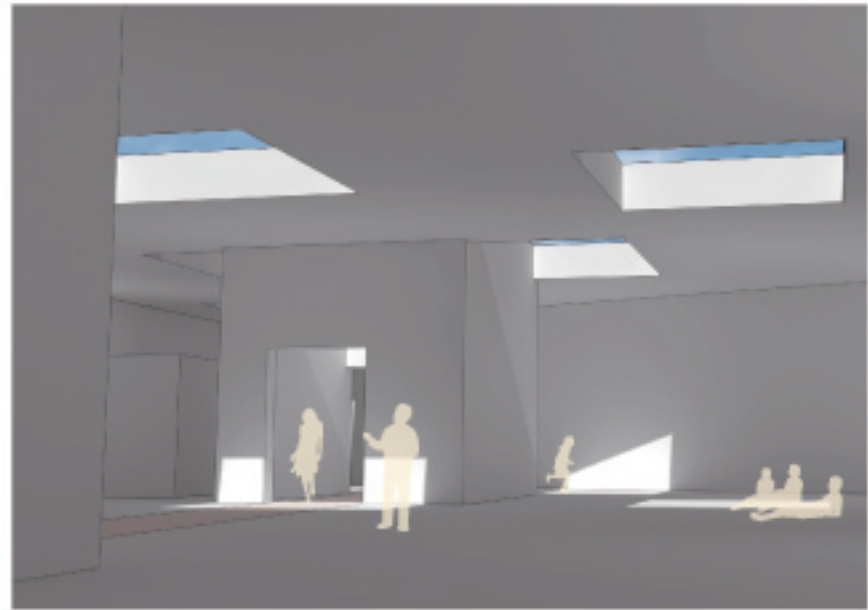
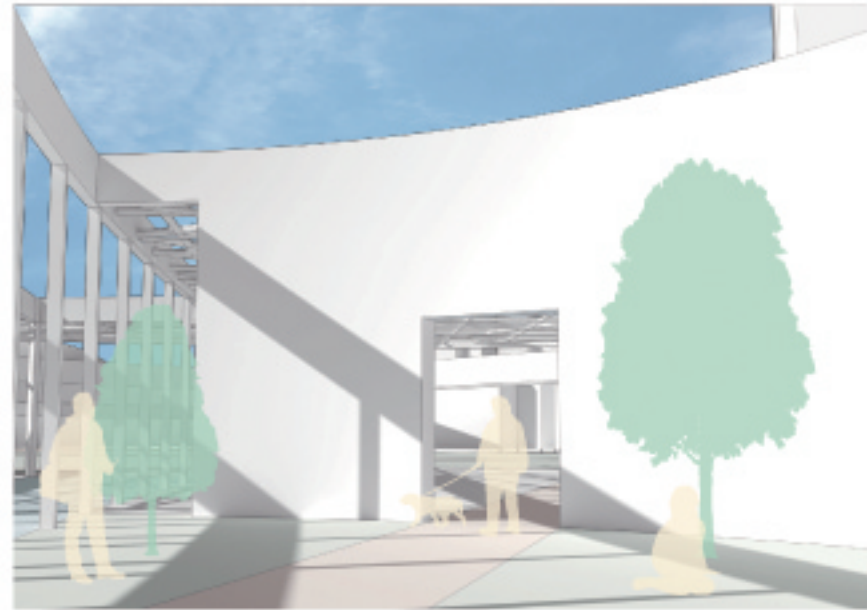
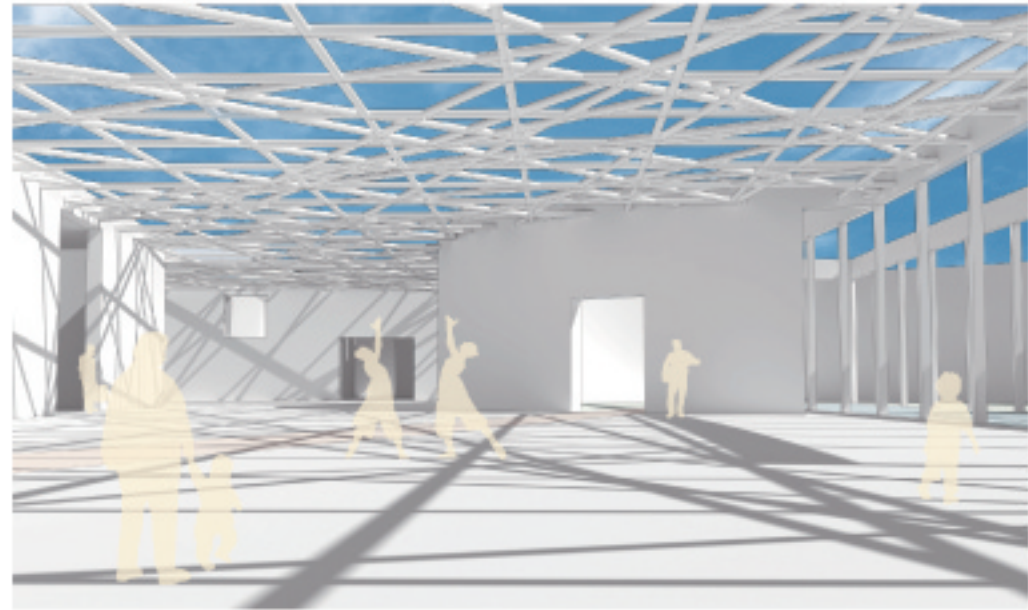
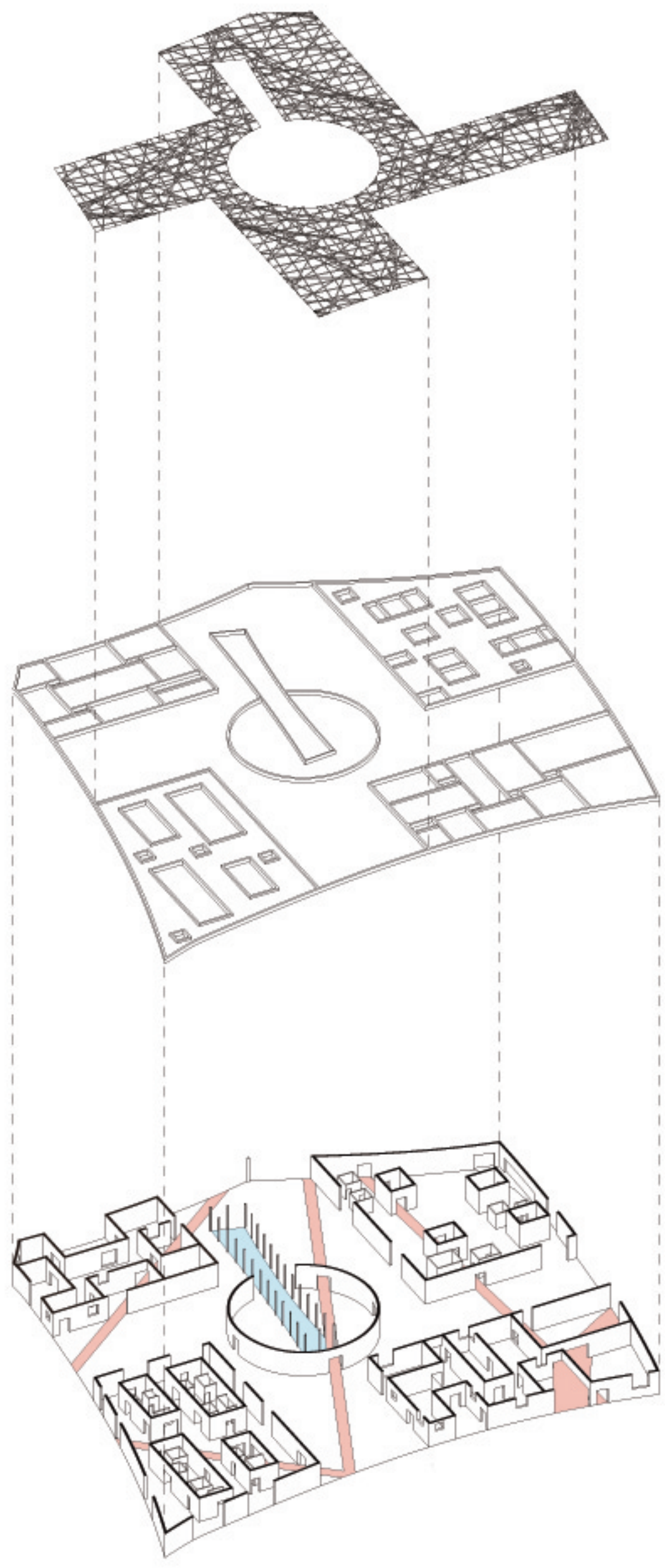
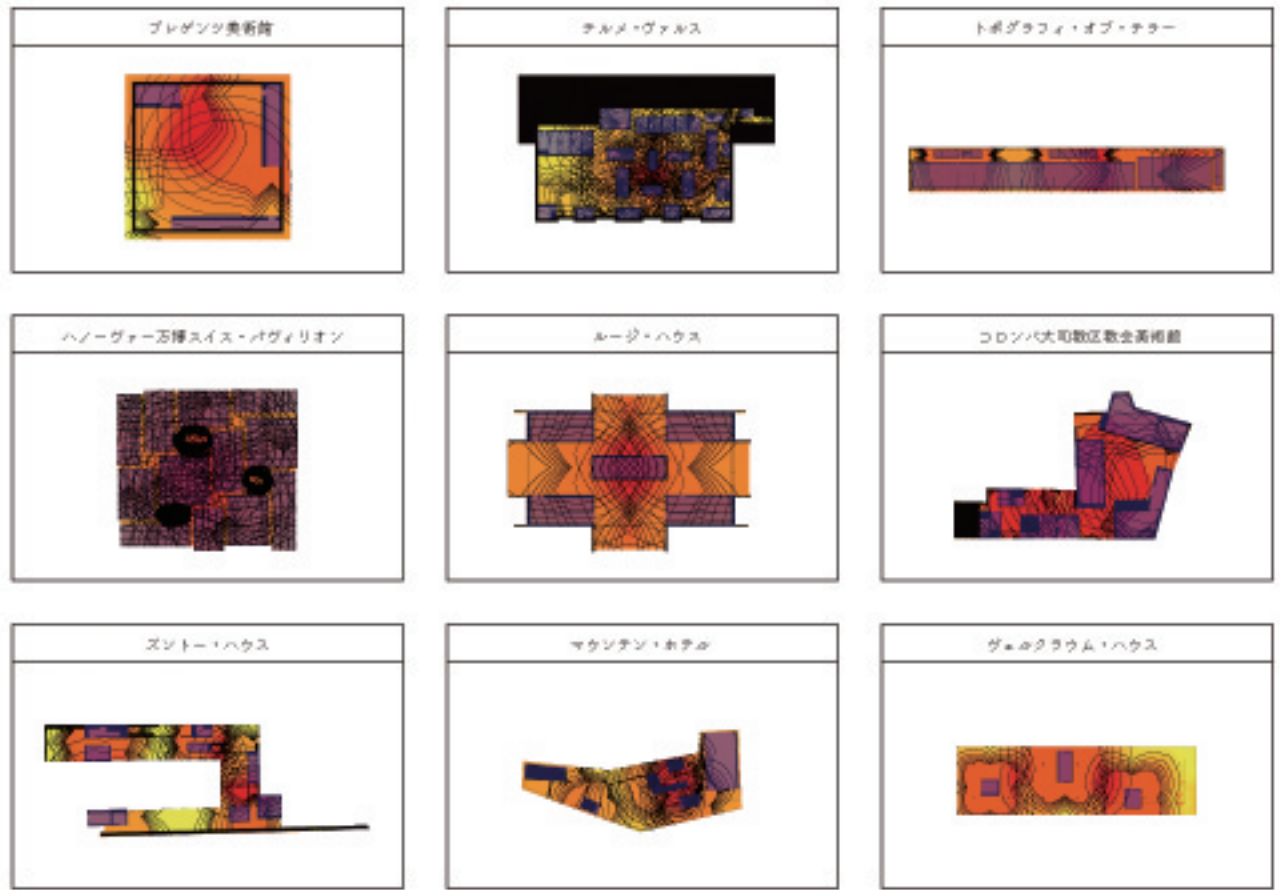
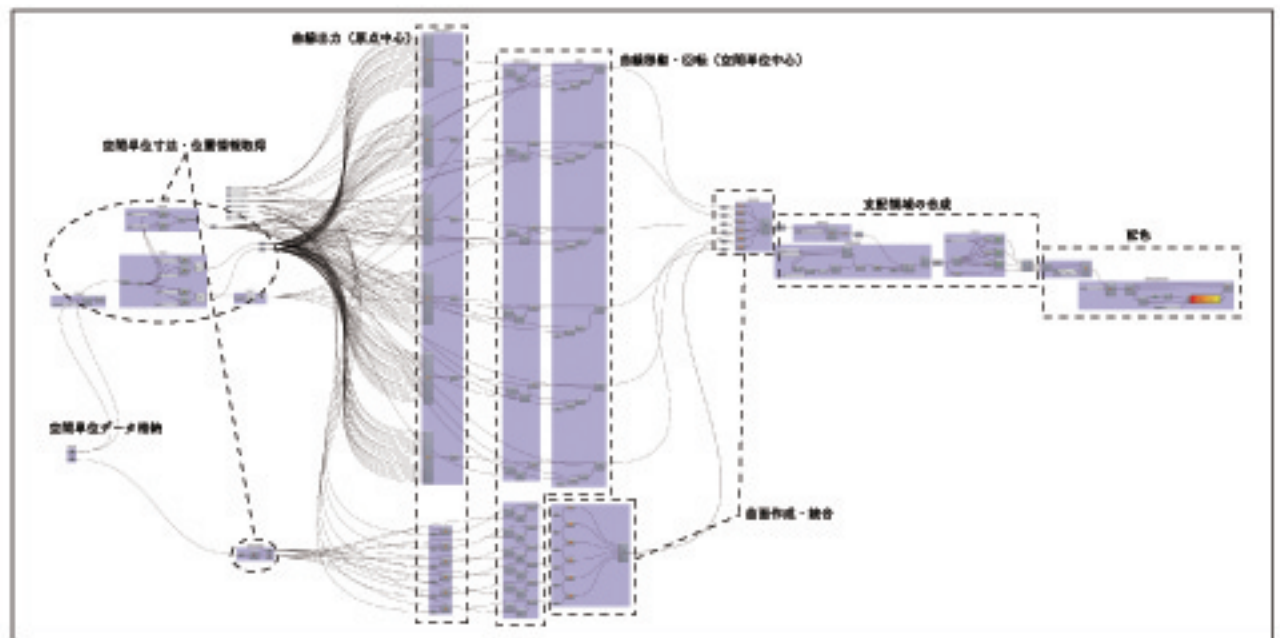
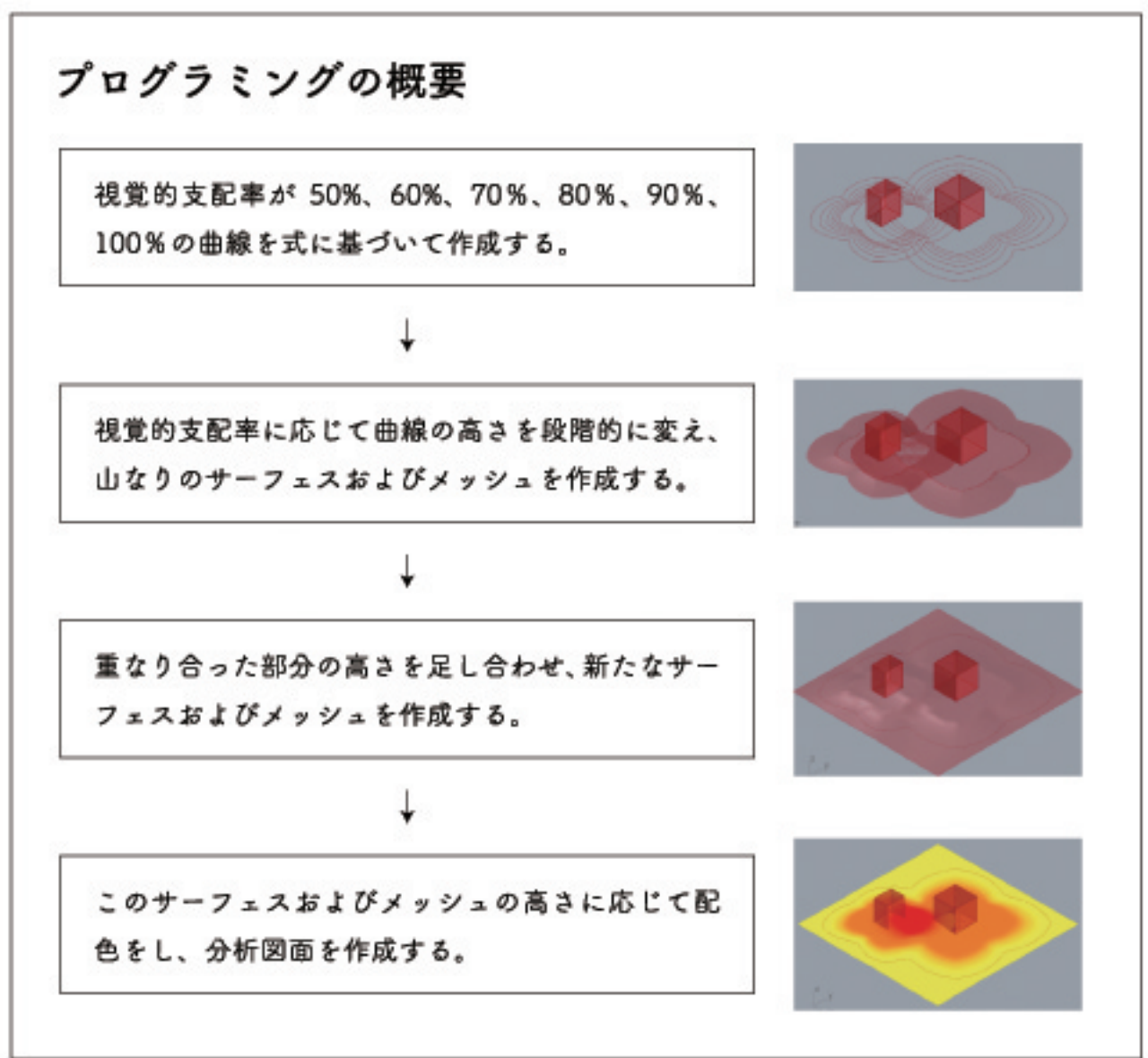
○斑の複合化ダイアグラム





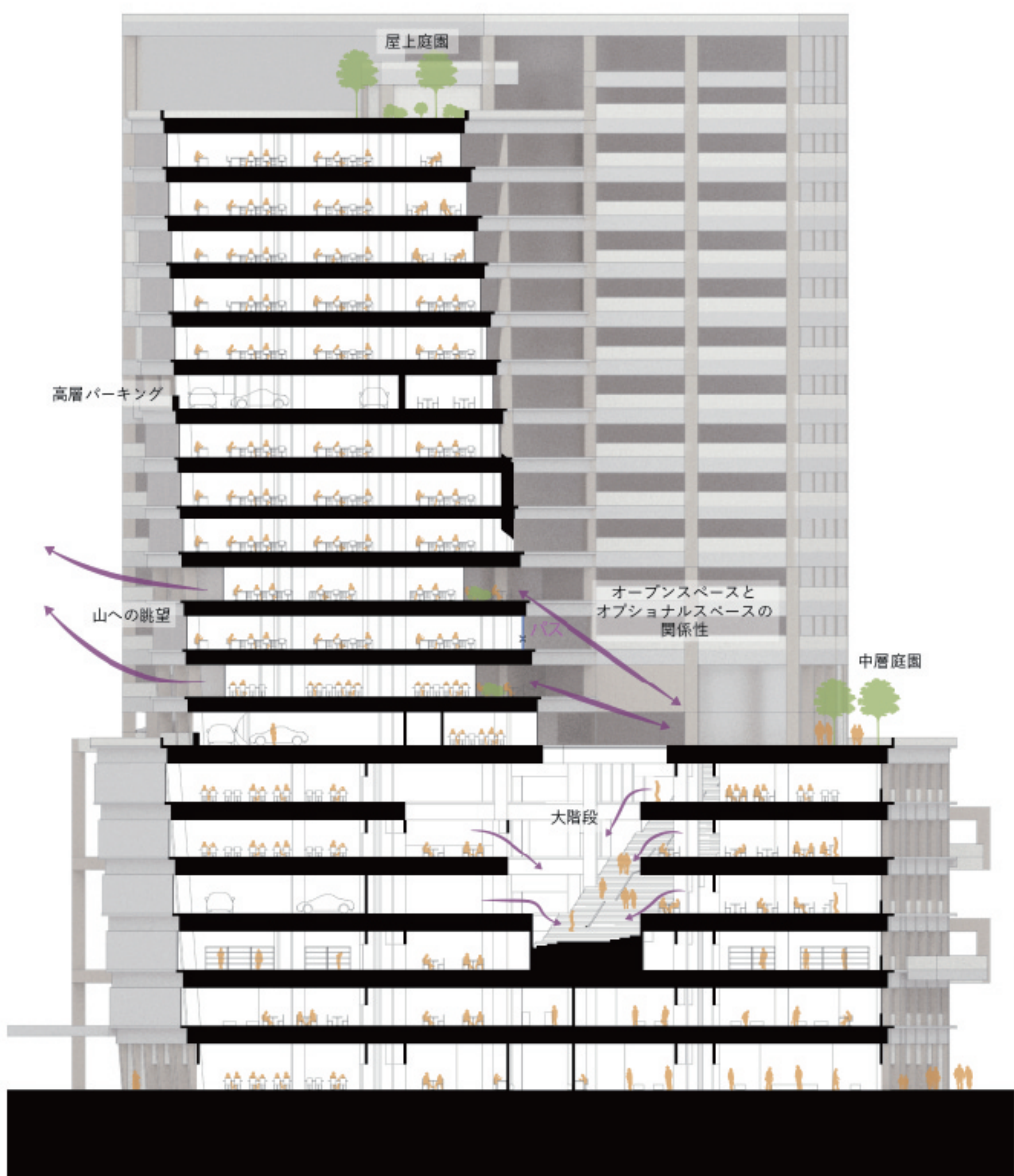
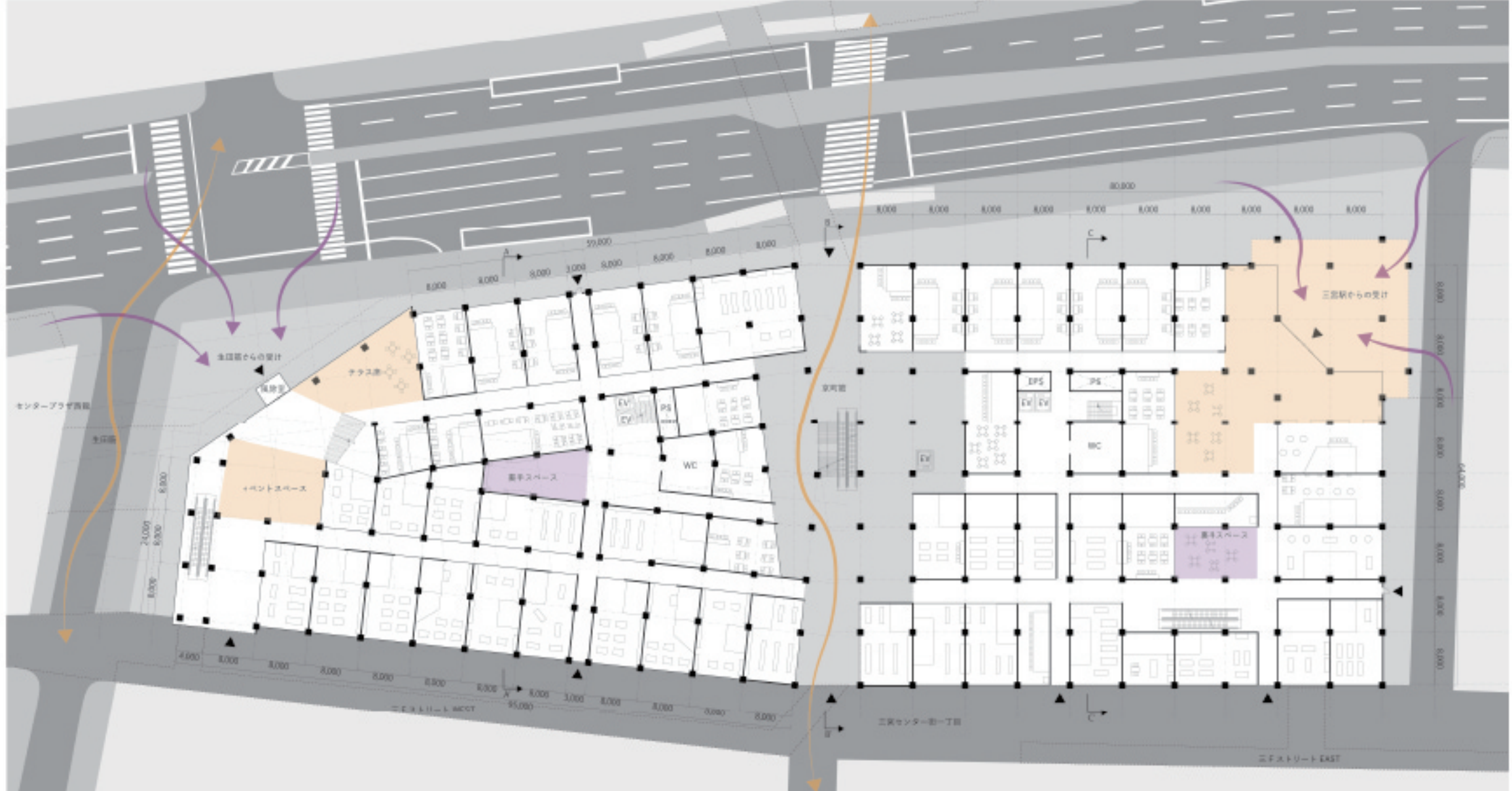
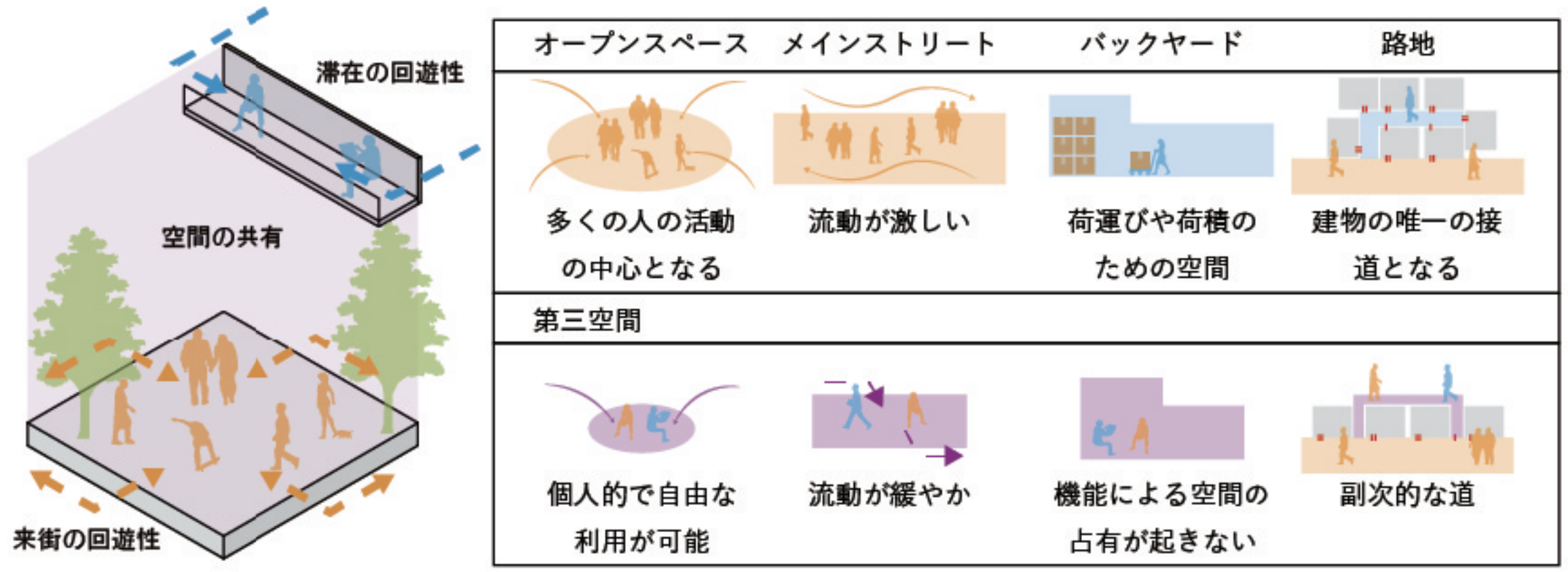
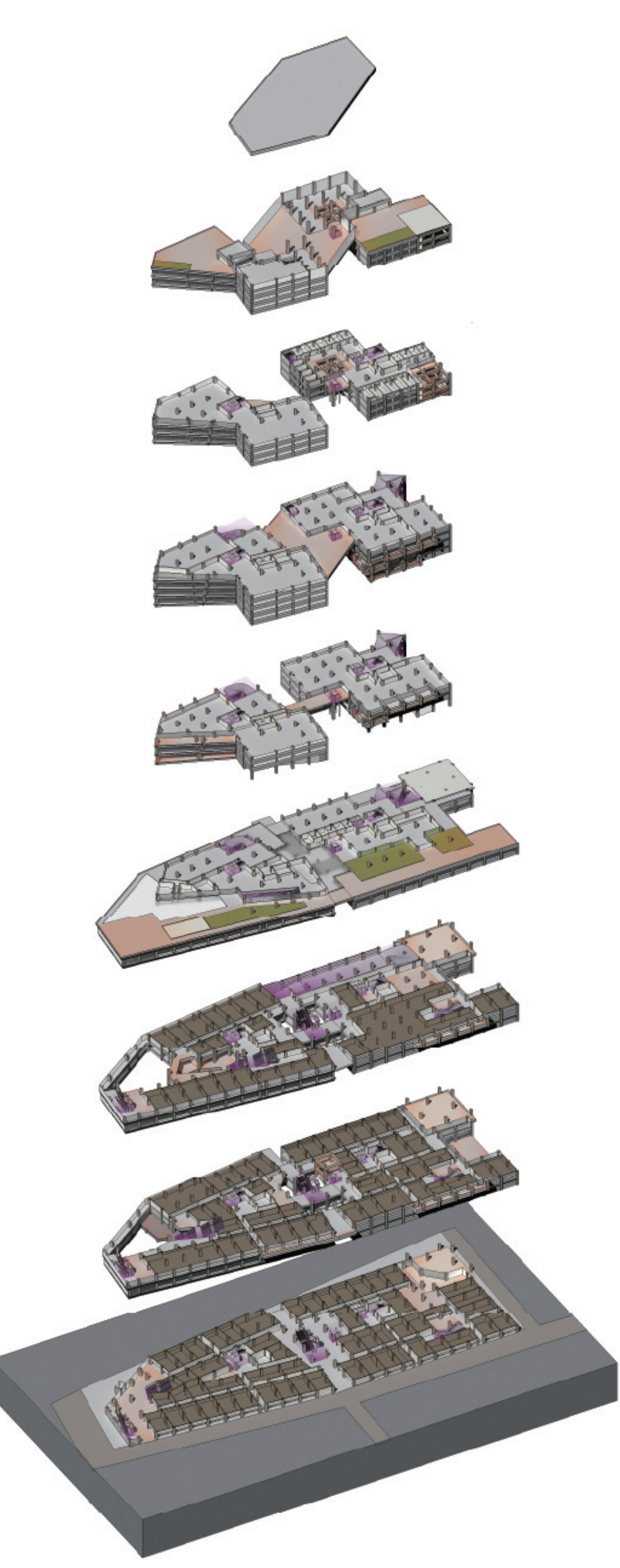
空間体験の図式化による現代建築の分析及び設計—空間単位の構成に着目して—
森祐樹（槻橋研究室）

空間単位とその間の空間によって構成される建築空間は、無目的な遊歩や偶発的な出会いを誘発し、多様な活動や空間体験を内包する可能性を持った空間である。本研究では、このような空間について、空間の体験者と空間単位との視覚的關係から空間体験の質を領域的に描写する分析手法を考案し、ピーター・ズントーを対象とした分析によって4つの配置型式とその効果や特徴を抽出した。そして、パヴィリオン空間の設計を通じて、これらの型式を適切なスケールで組み合わせて建築空間を構成する設計手法を示す。



都心商業集積地における多様な主体のための都市建築モデルの研究及び設計—神戸三宮地区における再開発計画—
矢野文隆（槻橋研究室）

本研究・提案では、三宮センター街、さんセンタープラザを対象として「第三空間」を含んだ「多面的プランニング」を行い、都市で生活する多様な主体のための空間は単体の空間のあり方のみではなく選択肢となる複数の空間を一体的に配置することが必要であるということを示した。都市で生活する多様な主体の生活環境を改善することが、商業空間においてもその働きやすさの向上につながり、都市全体の成長につながる考えられる。また、本研究で得られた成果をもとに、京都駅東南部エリア（都市計画見直しに伴う制限緩和の対象エリアの一つ）を対象地としたケーススタディとして、テナント複合型共同住宅およびオフィスと、それらに総合設計制度を用いた公開空地の設計提案を行う。





コミュニティ形成のための団地共用空間活用の設計ー中国南方地区湖州市湖東団地を対象としてー 瀋琛（光嶋研究室）

本研究では、中層団地の共用空間とコミュニティ活動の研究を通じて、コミュニティ活動を促進する街づくりを目的にし、持続可能な団地再生手法を提案した。まずは住民活動センターの開放性を高めるため、ピロティと屋上庭園を作って、立体的な活動場を住民たちに提供する。次はエネルギー消費を抑えるため、自然光と自然換気を最大限に利用し、環境に配慮した素材と技術を使う。また、あらゆる世代の人々のコミュニケーションを促進するため、快適な滞在空間を提供するよう設計された。様々な年齢層のニーズに応え、食事、展示会、社交イベントなどの機能を対応できる柔軟な空間を提案した。



■ 修士設計公聴会の様子

修士設計レビュー

[日時] 2023年12月26日(火) 9:00~12:00
 [場所] 先端膜工学研究拠点 301室

[担当教員]

主査・副査：槻橋修（教授）
 主査：光嶋裕介（特命准教授）
 副査：末包伸吾（教授）

修士設計公聴会

[日時] 2024年2月14日(水) 9:00~12:00
 [場所] 神戸大学工学部 C1-301

